

五城目町 町民まちづくりアンケート

結果報告書

五城目町

令和元年 11 月調査

目 次

I	調査の概要	1
II	回答者の属性	2
III	調査結果	
1	五城目町の暮らしに関する調査	5
2	五城目町の取り組みの満足度・重要度に関する調査	26
3	五城目町の将来人口推計に関する調査	28
4	地方創生 「しごとづくり」に関する調査	31
5	地方創生 「移住・定住対策」に関する調査	37
6	地方創生 「少子化対策」に関する調査	42
7	地方創生 「地域づくり対策」に関する調査	46

I 調査の概要

1 調査の目的

五城目町では、平成 28 年 1 月に、5 か年の目標や施策の基本的方向、具体的な施策をまとめた「五城目町まち・ひと・しごと創生総合戦略（平成 27 年度～平成 31 年度）」を策定し、また、平成 29 年 2 月には町の最上位計画である「五城目町総合発展計画」の後期基本計画（平成 29 年度～平成 33 年度）を策定し、事業を実施している。

今年度は総合戦略における計画期間の最終年度であり、住民の意識調査を行い次期総合戦略策定の検討資料とすること、また、総合発展計画の目標指標を確認することを目的に、アンケート調査を実施したものです。

2 調査の項目

- (1) 五城目町の暮らしに関する調査
- (2) 五城目町の取り組みの満足度・重要度に関する調査
- (3) 五城目町の将来人口推計に関する調査
- (4) 地方創生 「しごとづくり」に関する調査
- (5) 地方創生 「移住・定住対策」に関する調査
- (6) 地方創生 「少子化対策」に関する調査
- (7) 地方創生 「地域づくり対策」に関する調査

3 調査の方法

- (1) 調査対象 五城目町内在住の 18 歳以上の住民
- (2) 対象者数 1,000 人
- (3) 調査方法 郵送による調査票の配布・回収
- (4) 調査期間 令和元年 11 月 1 日（金）～同年 11 月 11 日（月）

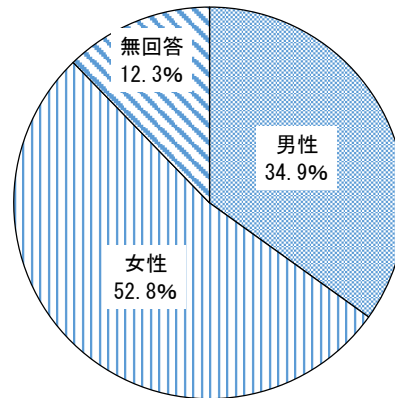
4 回収の結果

調査票送付数	1,000 件
総回収数	424 件
有効回収数	424 件
無効回収数	0 件
回収率	42.4%
有効回収率	42.4%

II 回答者の属性

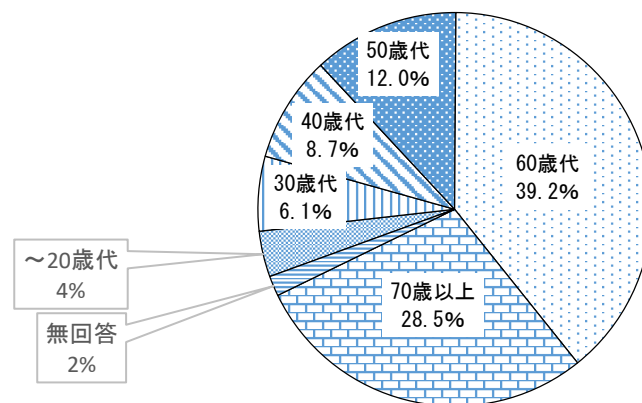
【問1】 あなたのことについて記入してください。

(1) 性別



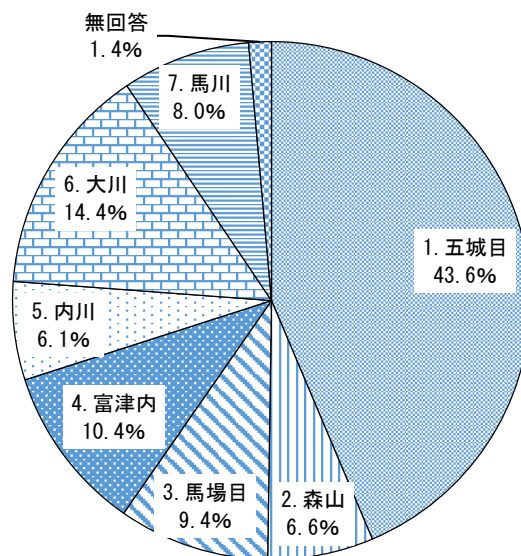
No.	カテゴリー名	n	%
1	男性	148	34.9
2	女性	224	52.8
	無回答	52	12.3
	全体	424	100.0

(2) 年齢



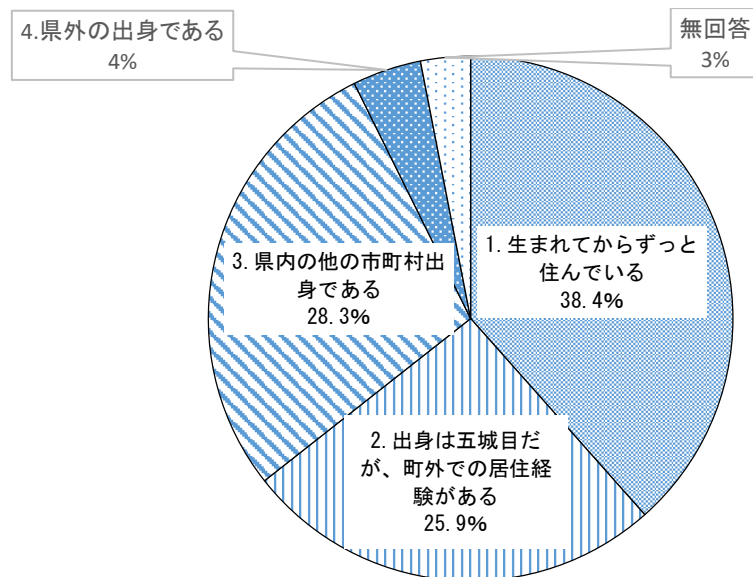
No.	カテゴリー名	n	%
1	~20歳代	16	3.8
2	30歳代	26	6.1
3	40歳代	37	8.7
4	50歳代	51	12.0
5	60歳代	166	39.2
6	70歳以上	121	28.5
	無回答	7	1.7
	全体	424	100.0

(3) 居住地区



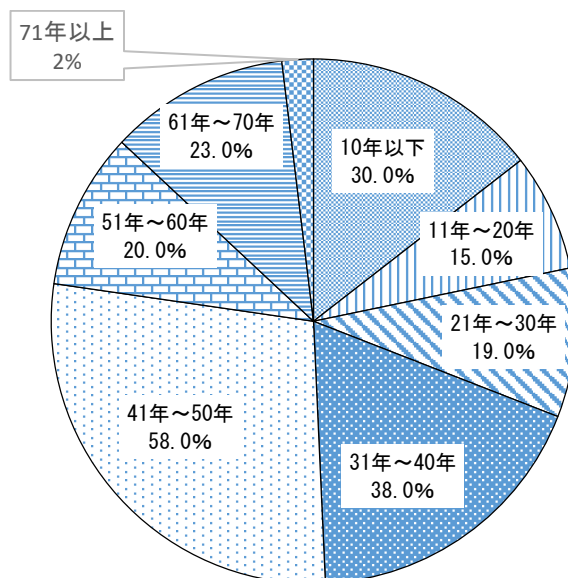
No.	カテゴリー名	n	%
1	五城目	185	43.6
2	森山	28	6.6
3	馬場目	40	9.4
4	富津内	44	10.4
5	内川	26	6.1
6	大川	61	14.4
7	馬川	34	8.0
	無回答	6	1.4
	全体	424	100.0

(4) 現在の町内に住んでいる期間



No.	カテゴリー名	n	%
1	生まれてからずっと住んでいる	163	38.4
2	出身は五城目だが、町外での居住経験がある	110	25.9
3	県内の他の市町村出身である	120	28.3
4	県外出身である	18	4.2
	無回答	13	3.1
	全体	424	100.0

※ 居住年数



Ⅲ 調査結果

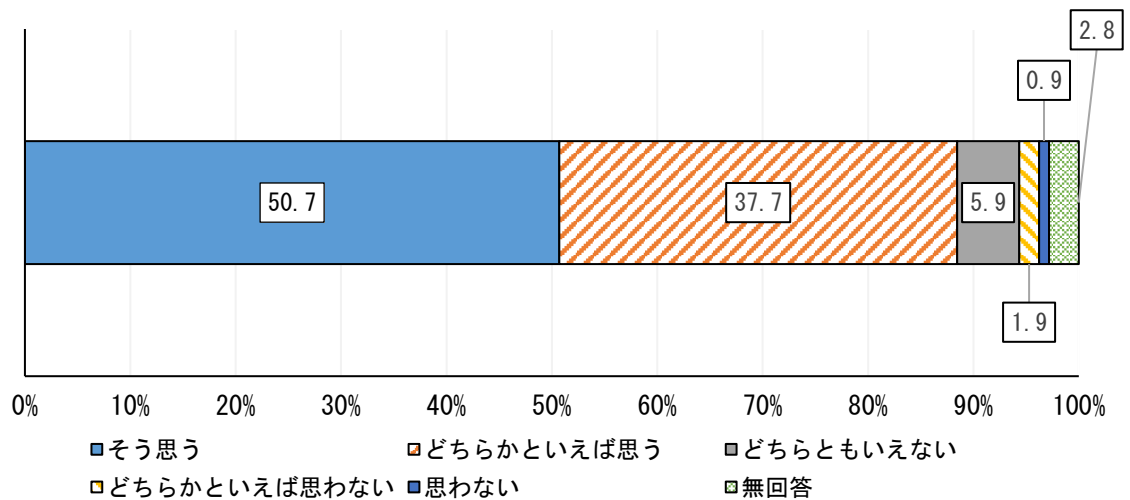
1 五城目町の暮らしについて

【問2】 五城目町についての印象をお聞かせください。

(1) 自然豊かなまち

「そう思う」の割合は問2の5項目のうちで最も高い50.7%、「そう思う」、「どちらかといえば思う」の合計では、88.4%と9割近い。

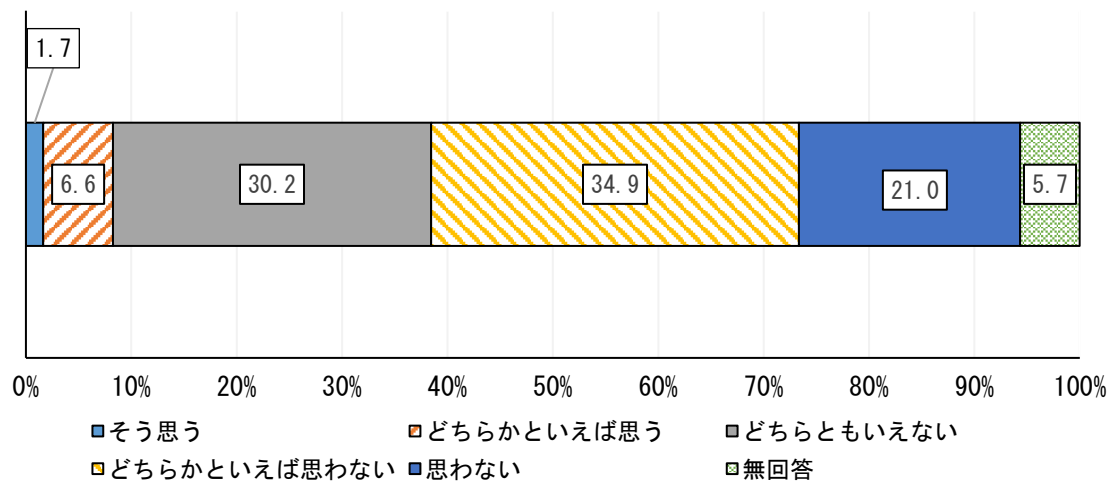
町民が町に対して持つ印象のうち「自然が豊かである」が最も共感を集めている。



No.	カテゴリー名	n	%
1	そう思う	215	50.7
2	どちらかといえば思う	160	37.7
3	どちらともいえない	25	5.9
4	どちらかといえば思わない	8	1.9
5	思わない	4	0.9
	無回答	12	2.8
	全体	424	100.0

(2) 活気のあるまち

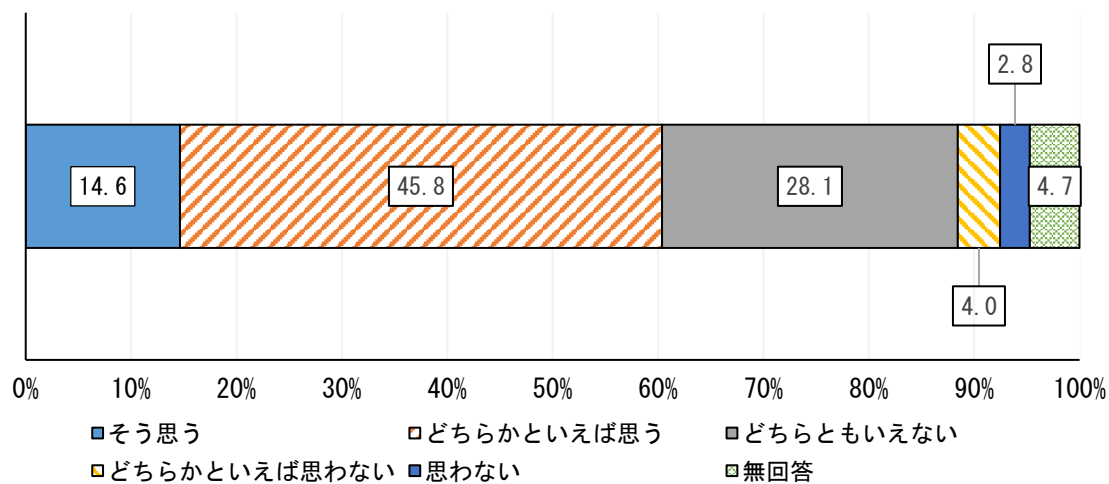
「そう思う」の割合は、5項目中最も低い1.7%、「そう思う」、「どちらかといえば思う」の合計でも8.3%と1割を下回る。反対に「思わない」、「どちらかといえば思わない」の合計は、55.9%と半分を超え、「活気がある」という印象を持っている町民は少ない。



No.	カテゴリー名	n	%
1	そう思う	7	1.7
2	どちらかといえば思う	28	6.6
3	どちらともいえない	128	30.2
4	どちらかといえば思わない	148	34.9
5	思わない	89	21.0
	無回答	24	5.7
	全体	424	100.0

(3) 安心・安全なまち

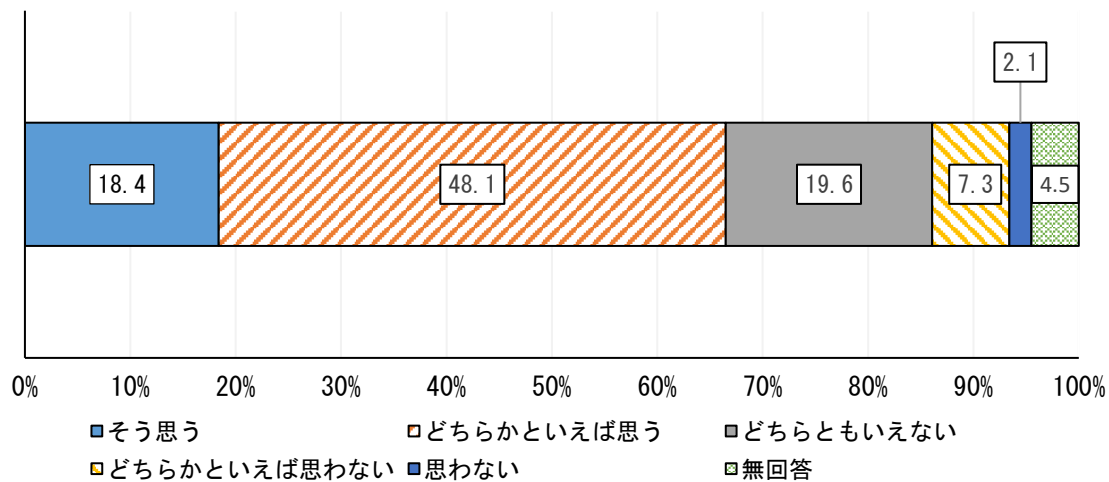
「そう思う」の割合は5項目中3番目の14.6%、「そう思う」、「どちらかといえば思う」の合計は60.4%と6割を超える。



No.	カテゴリー名	n	%
1	そう思う	62	14.6
2	どちらかといえば思う	194	45.8
3	どちらともいえない	119	28.1
4	どちらかといえば思わない	17	4.0
5	思わない	12	2.8
	無回答	20	4.7
	全体	424	100.0

(4) 文化・歴史のあるまち

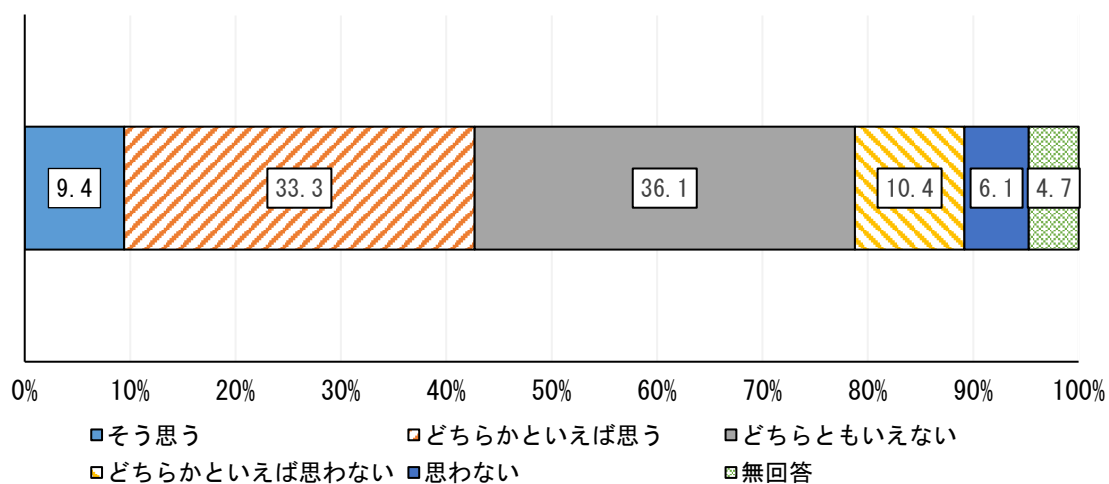
「そう思う」の割合は5項目中2番目に高い18.4%、「そう思う」、「どちらかといえば思う」の合計は66.5%と約3分の2に達し、文化・歴史があるという印象を持っている町民が多い。



No.	カテゴリー名	n	%
1	そう思う	78	18.4
2	どちらかといえば思う	204	48.1
3	どちらともいえない	83	19.6
4	どちらかといえば思わない	31	7.3
5	思わない	9	2.1
	無回答	19	4.5
	全体	424	100.0

(5) 町民の支えあいのあるまち

「そう思う」の割合は、5項目中4番目の9.4%。「そう思う」、「どちらかといえば思う」の合計は42.7%と5割を下回り、「思わない」、「どちらかといえば思わない」の合計は16.5%である。

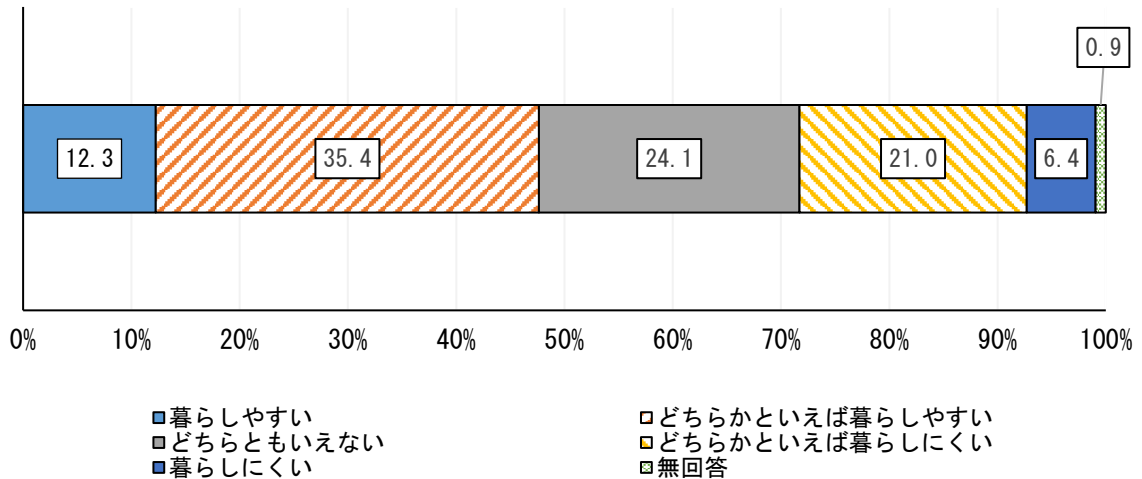


No.	カテゴリー名	n	%
1	そう思う	40	9.4
2	どちらかといえば思う	141	33.3
3	どちらともいえない	153	36.1
4	どちらかといえば思わない	44	10.4
5	思わない	26	6.1
	無回答	20	4.7
	全体	424	100.0

【問3】 あなたは、五城目町は、暮らしやすいまちであると思いますか。

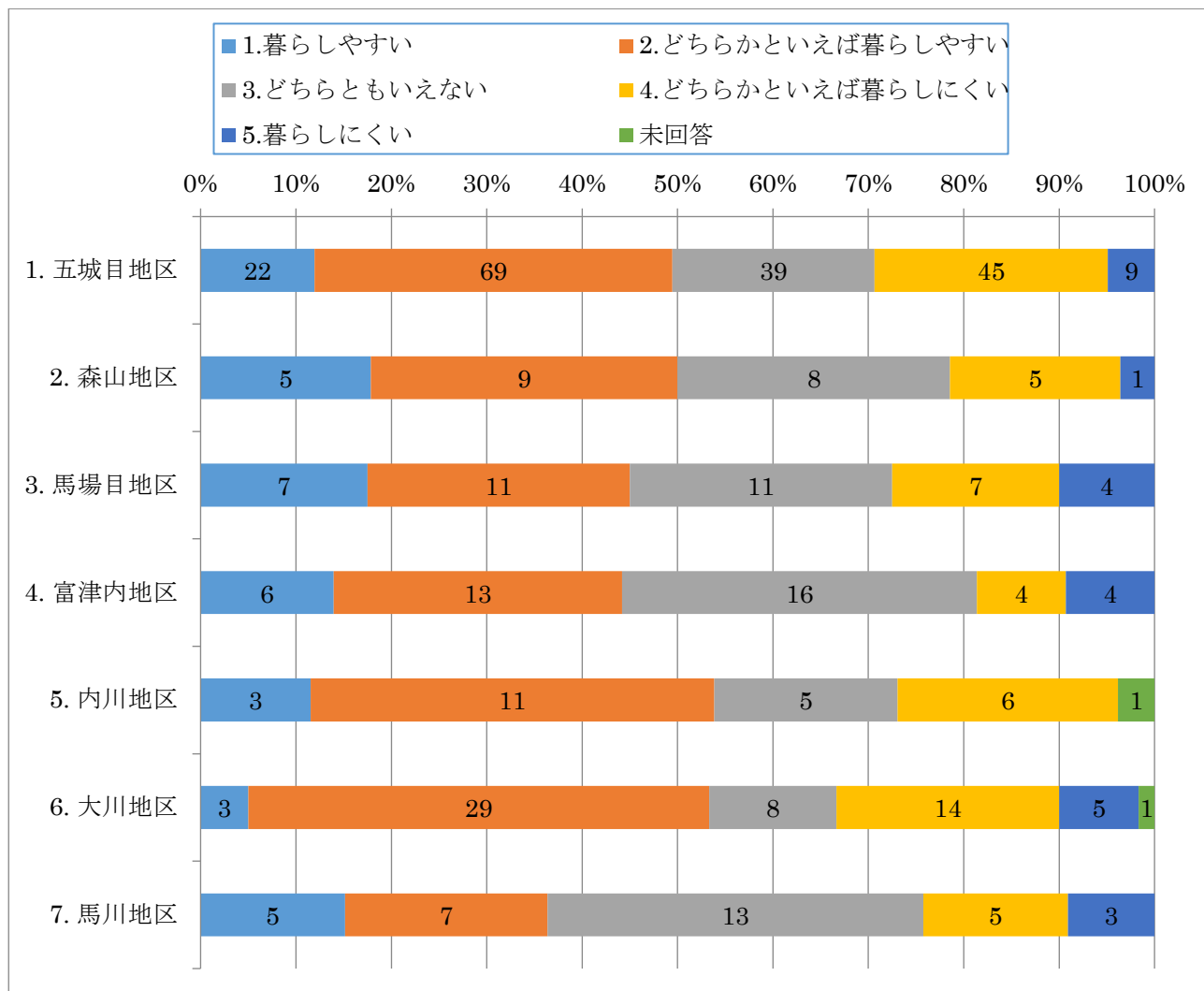
「暮らしやすい」の割合は12.3%である。「暮らしやすい」と「どちらかといえば暮らしやすい」と合計した割合は47.7%と5割近い。

一方で、「暮らしにくい」、「どちらかといえば暮らしにくい」の合計は27.4%と3割近くある。

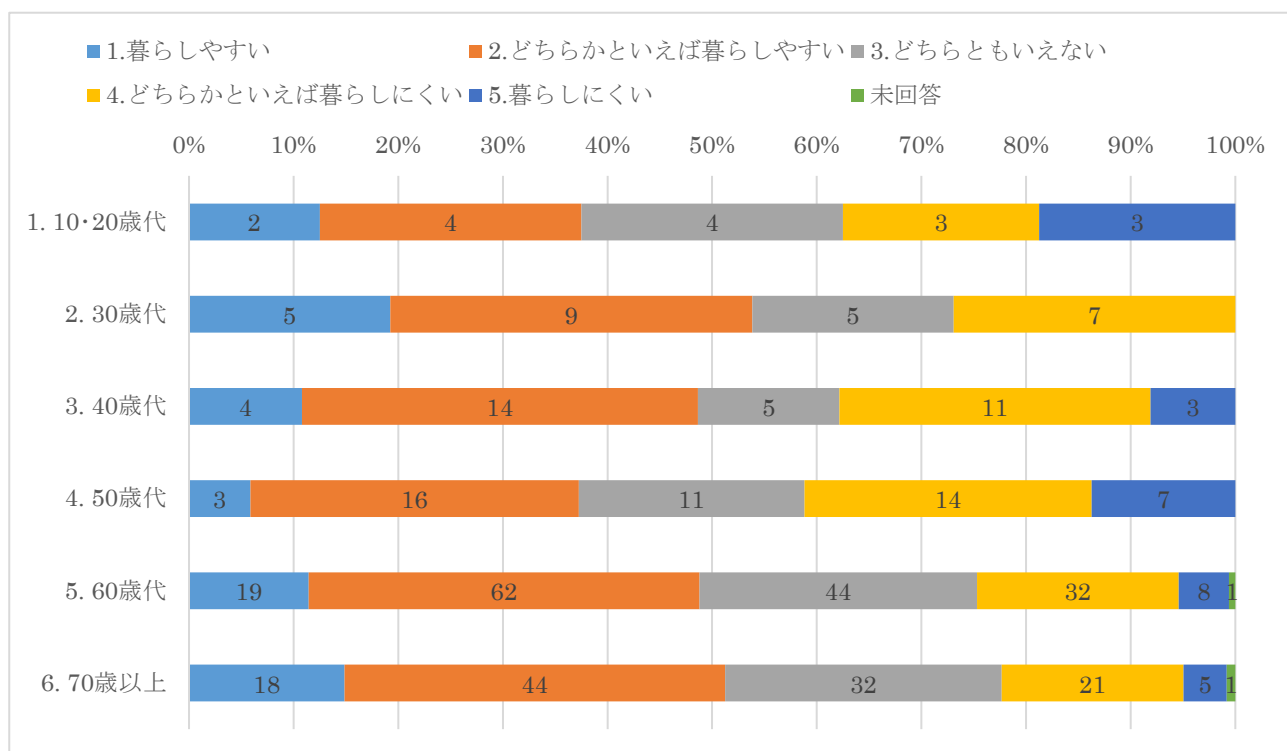


No.	カテゴリー名	n	%
1	暮らしやすい	52	12.3
2	どちらかといえば暮らしやすい	150	35.4
3	どちらともいえない	102	24.1
4	どちらかといえば暮らしにくい	89	21.0
5	暮らしにくい	27	6.4
	無回答	4	0.9
	全体	424	100.0

暮らしやすさ（地区別）



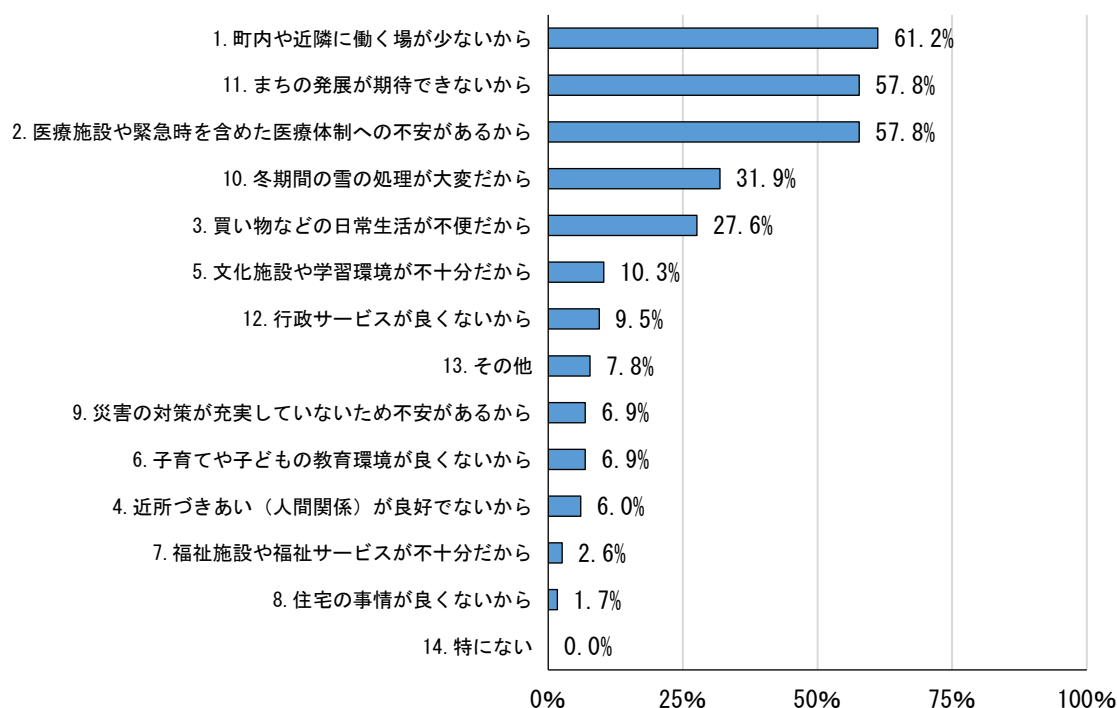
暮らしやすさ（年代別）



【問4】 【問3】で「4. どちらかといえば暮らしにくい 5. 暮らしにくい」と答えた方におたずねします。あなたが、そう思う理由はなんですか。【3つまでに○】

「町内や近隣に働く場がすくないから」が61.2%で最も多い。次に、「まちの発展が期待できないから」と「医療施設や緊急時を含めた医療体制への不安があるから」が57.8%である。

続いて、「冬期間の雪の処理が大変だから」が31.9%、「買い物などの日常生活が不便だから」が27.6%であり、「文化施設や学習環境が不十分だから」も10.3%と1割を超える。

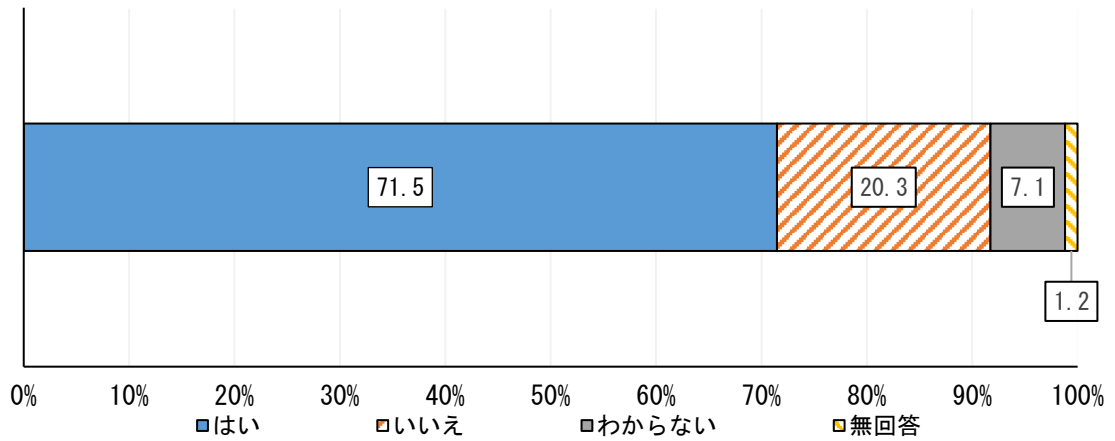


No.	カテゴリー名	n=116	%
1	町内や近隣に働く場が少ないから	71	61.2
2	医療施設や緊急時を含めた医療体制への不安があるから	67	57.8
3	買い物などの日常生活が不便だから	32	27.6
4	近所づきあい(人間関係)が良好でないから	7	6.0
5	文化施設や学習環境が不十分だから	12	10.3
6	子育てや子どもの教育環境が良くないから	8	6.9
7	福祉施設や福祉サービスが不十分だから	3	2.6
8	住宅の事情が良くないから	2	1.7
9	災害の対策が充実していないため不安があるから	8	6.9
10	冬期間の雪の処理が大変だから	37	31.9
11	まちの発展が期待できないから	67	57.8
12	行政サービスが良くないから	11	9.5
13	その他	9	7.8
14	特にない	0	0.0
	全体	334	287.9

【問5】 あなたの普段の暮らしで感じることや取り組んでいることについて、お聞かせください。

(1) 現在、あなたは健康ですか

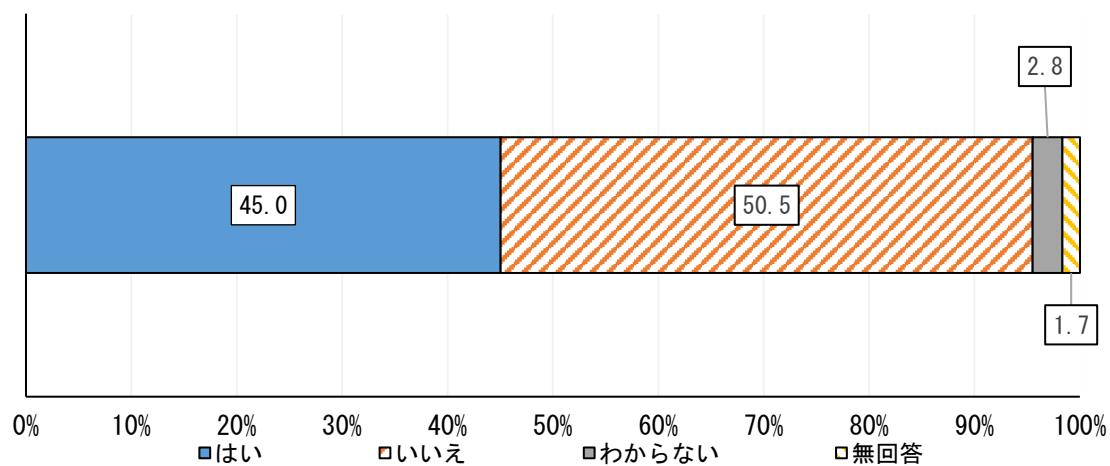
「はい」の割合が71.5%であり、約7割の町民が自分は健康と感じている。これに対し、「いいえ」の割合は20.3%である。



No.	カテゴリ名	n	%
1	はい	303	71.5
2	いいえ	86	20.3
3	わからない	30	7.1
	無回答	5	1.2
	全体	424	100.0

(2) 健康のために取り組んでいることがありますか

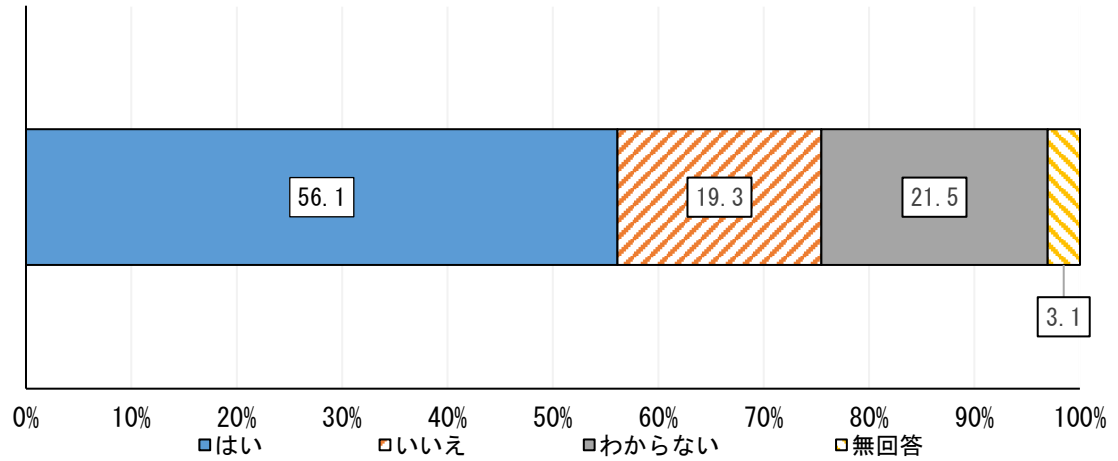
「はい」の割合が45.0%であり、半数近くの町民が健康のために取り組んでいることがある。一方で、「いいえ」が50.5%であり、健康のために取り組んでいることがない町民の方がやや多い。



No.	カテゴリー名	n	%
1	はい	191	45.0
2	いいえ	214	50.5
3	わからない	12	2.8
	無回答	7	1.7
	全体	424	100.0

(3) 毎日、生きがいを持って暮らしていますか

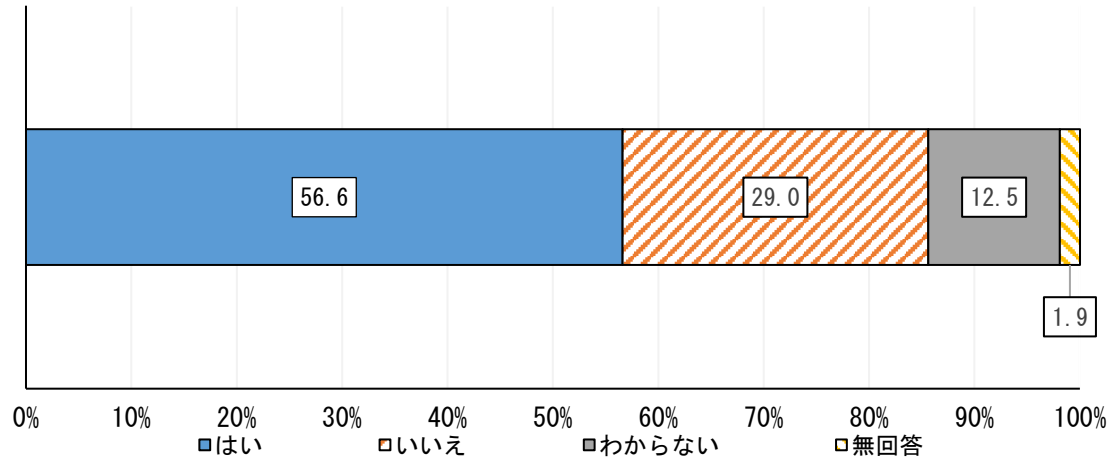
「はい」が 56.1%で、半数を超える町民が生きがいを持って暮らしている。「いいえ」は 19.3%で約 2 割、「わからない」も 21.5%と約 2 割である。



No.	カテゴリー名	n	%
1	はい	238	56.1
2	いいえ	82	19.3
3	わからない	91	21.5
	無回答	13	3.1
	全体	424	100.0

(4) 近所の方との親しい付き合いがありますか

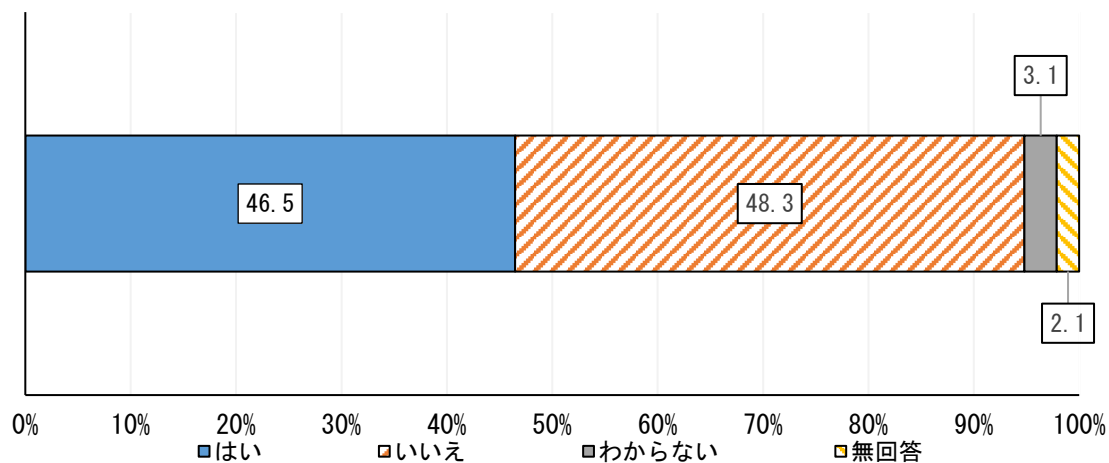
「はい」が56.6%であり、半数を超える町民が近所の方と親しい付き合いをしている。一方、「いいえ」という回答は29.0%と約3割である。



No.	カテゴリー名	n	%
1	はい	240	56.6
2	いいえ	123	29.0
3	わからない	53	12.5
	無回答	8	1.9
	全体	424	100.0

(5) 町内会活動やボランティアなどに参加していますか

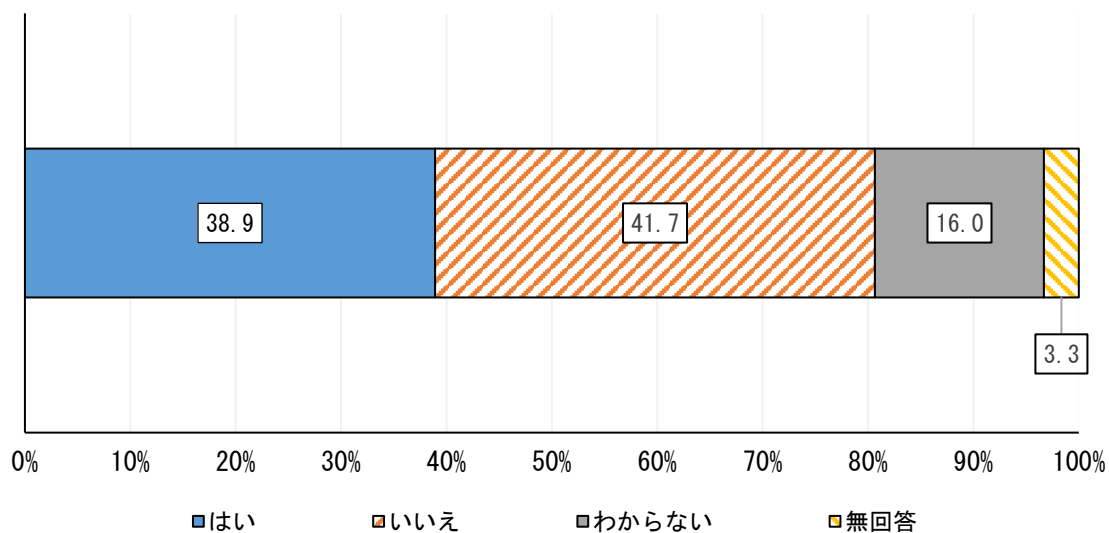
「はい」が46.5%で、半数近くの町民が町内会活動やボランティアに参加している。一方で、「いいえ」の割合は48.3%であり、町内会活動等に参加していない町民がやや多い。



No.	カテゴリー名	n	%
1	はい	197	46.5
2	いいえ	205	48.3
3	わからない	13	3.1
	無回答	9	2.1
	全体	424	100.0

(6) 自由に集まったり、気軽に利用できる施設がありますか

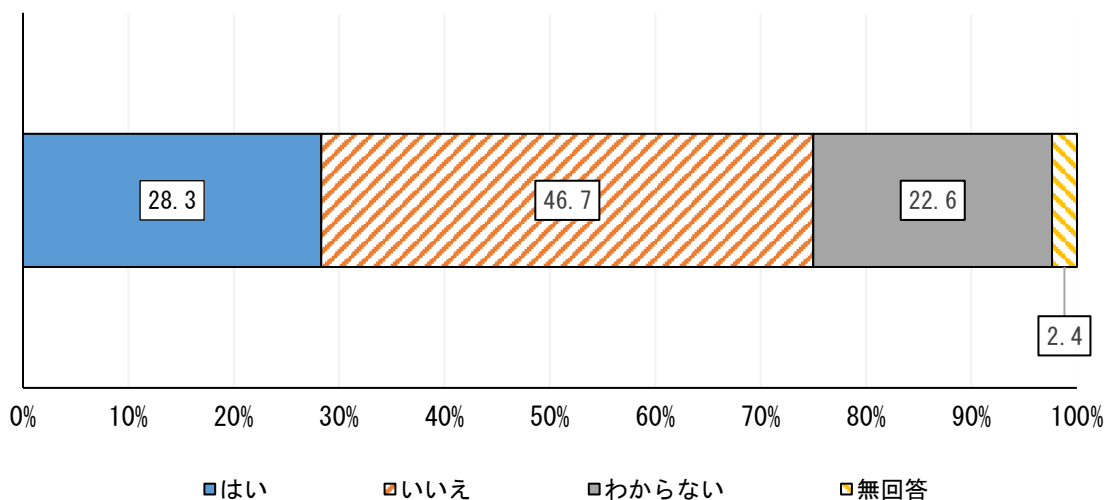
「はい」は 38.9%であり、約 4 割の町民が気軽に利用できる施設があると感じている。一方で、「いいえ」という回答は 41.7%と 4 割を超える。



No.	カテゴリー名	n	%
1	はい	165	38.9
2	いいえ	177	41.7
3	わからない	68	16.0
	無回答	14	3.3
	全体	424	100.0

(7) 困ったとき、町でどんな支援やサービスが受けられるか、ある程度知っていますか

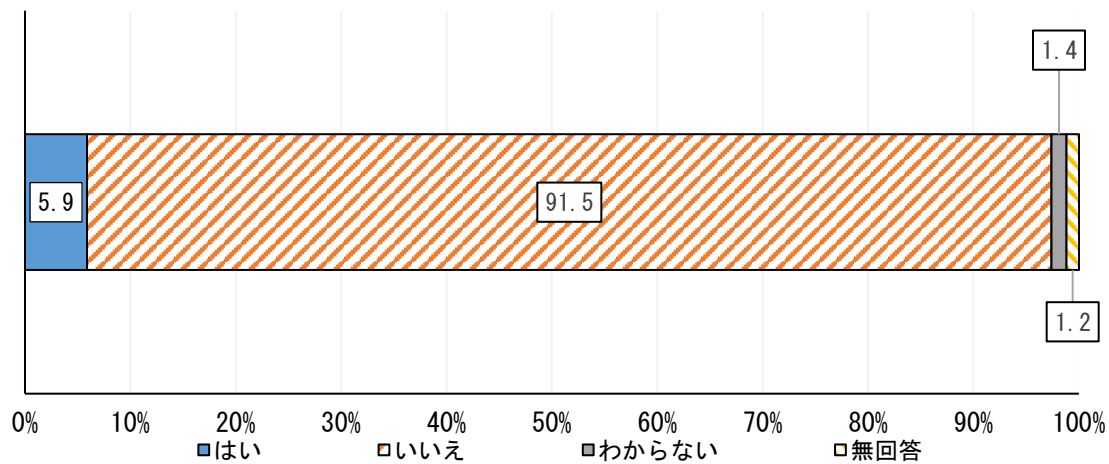
「はい」は28.3%で、困ったときにどんな支援やサービスを受けられるか、ある程度知っている町民は3割を下回る。これに対し、「いいえ」が46.7%で、半数近くの町民はそのような支援やサービスについて知らない。



No.	カテゴリー名	n	%
1	はい	120	28.3
2	いいえ	198	46.7
3	わからない	96	22.6
	無回答	10	2.4
	全体	424	100.0

(8) 路線バスや乗り合いタクシーなど、日常生活での移動に公共交通を利用していますか

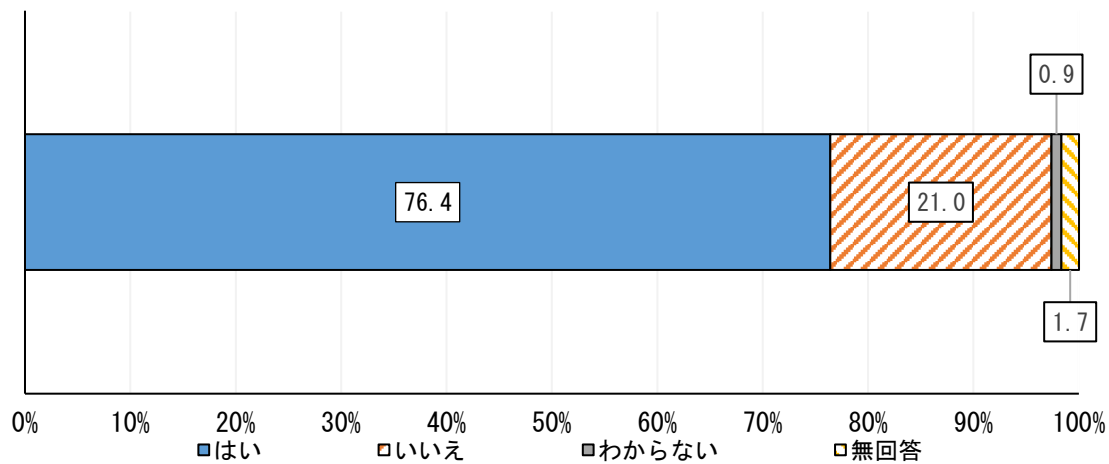
「はい」が5.9%、「いいえ」が91.5%であり、日常的に公共交通を利用している町民は全体の1割を下回る。



No.	カテゴリー名	n	%
1	はい	25	5.9
2	いいえ	388	91.5
3	わからない	6	1.4
	無回答	5	1.2
	全体	424	100.0

(9) 日常的な買い物は町内でしていますか

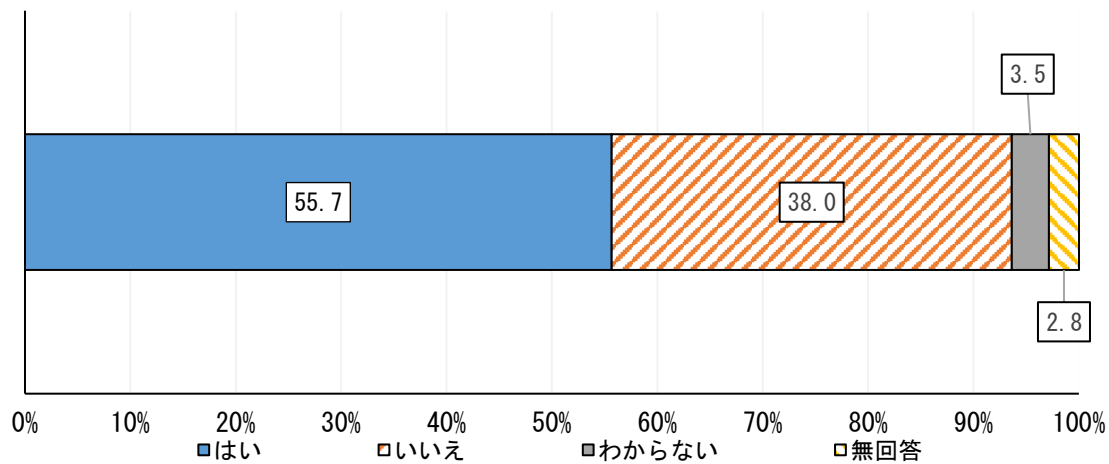
「はい」が76.4%であり、全体の約4分の3の町民は日常的な買い物を町内でしている。一方、「いいえ」は21.0%で、日常的な買い物を町の外でしている町民も約2割いる。



No.	カテゴリ名	n	%
1	はい	324	76.4
2	いいえ	89	21.0
3	わからない	4	0.9
	無回答	7	1.7
	全体	424	100.0

(10) 排除雪の仕方によって、冬期間の外出に不便を感じることがありますか

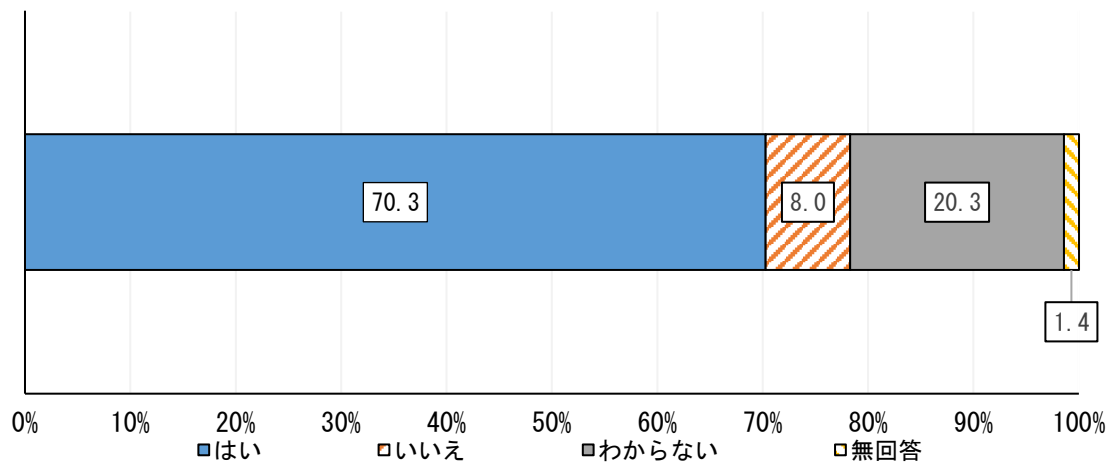
「いいえ」が 38.0%で、冬期間の外出に不便を感じない町民は約 4 割である。これに対して、「はい」が 55.7%であり、不便を感じることがある町民が 5 割を超える。



No.	カテゴリー名	n	%
1	はい	236	55.7
2	いいえ	161	38.0
3	わからない	15	3.5
	無回答	12	2.8
	全体	424	100.0

(11) 町内の治安は良いと思いますか

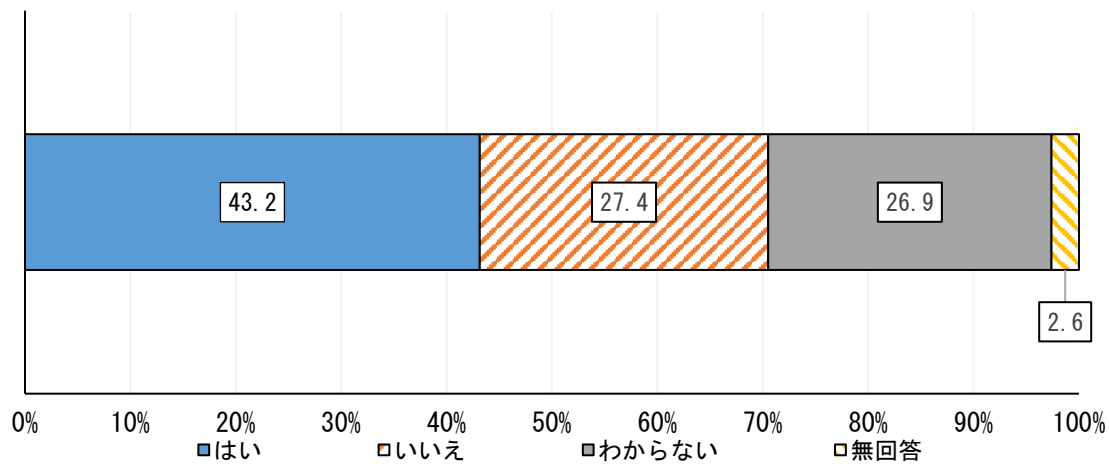
「はい」が70.3%であり、約7割の町民は町内の治安が良いと感じている。これに対し、「いいえ」は8.0%であり、治安が良くないと感じている町民は1割を下回る。



No.	カテゴリー名	n	%
1	はい	298	70.3
2	いいえ	34	8.0
3	わからない	86	20.3
	無回答	6	1.4
	全体	424	100.0

(12) 町の伝統や文化に愛着を感じていますか

「はい」が43.2%であり、4割を超える町民が町の伝統や文化に愛着を感じている。一方で、「いいえ」が27.4%であり、町の伝統や文化に愛着を感じていない町民も3割近くいる。

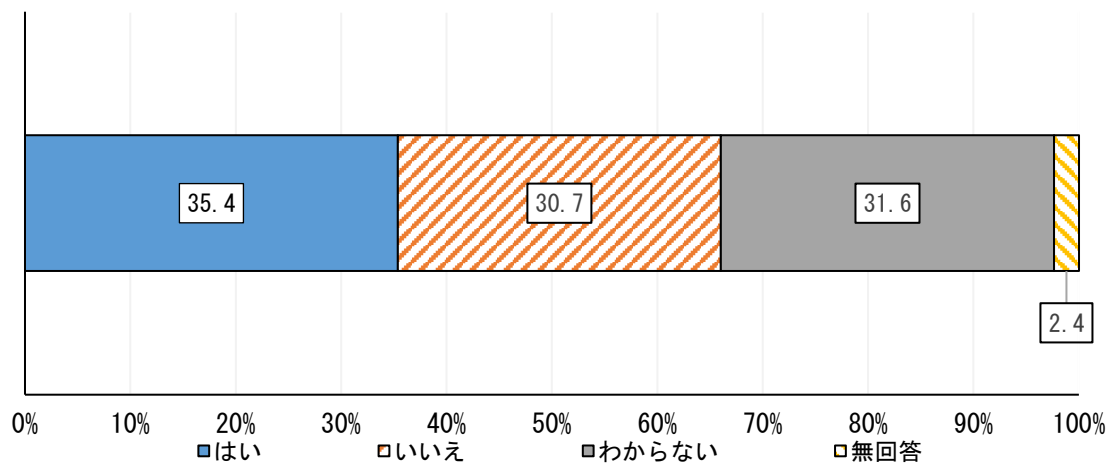


No.	カテゴリー名	n	%
1	はい	183	43.2
2	いいえ	116	27.4
3	わからない	114	26.9
	無回答	11	2.6
	全体	424	100.0

(13) 町内で行事が盛んに行われていると思いますか

「はい」が35.4%であり、3割を超える町民が町内の行事が盛んと感じている。一方で、「いいえ」が30.7%で、行事が盛んと思わない町民も3割いる。

「わからない」という回答が31.6%と3割を超え、問5の設問の中で最も高い。



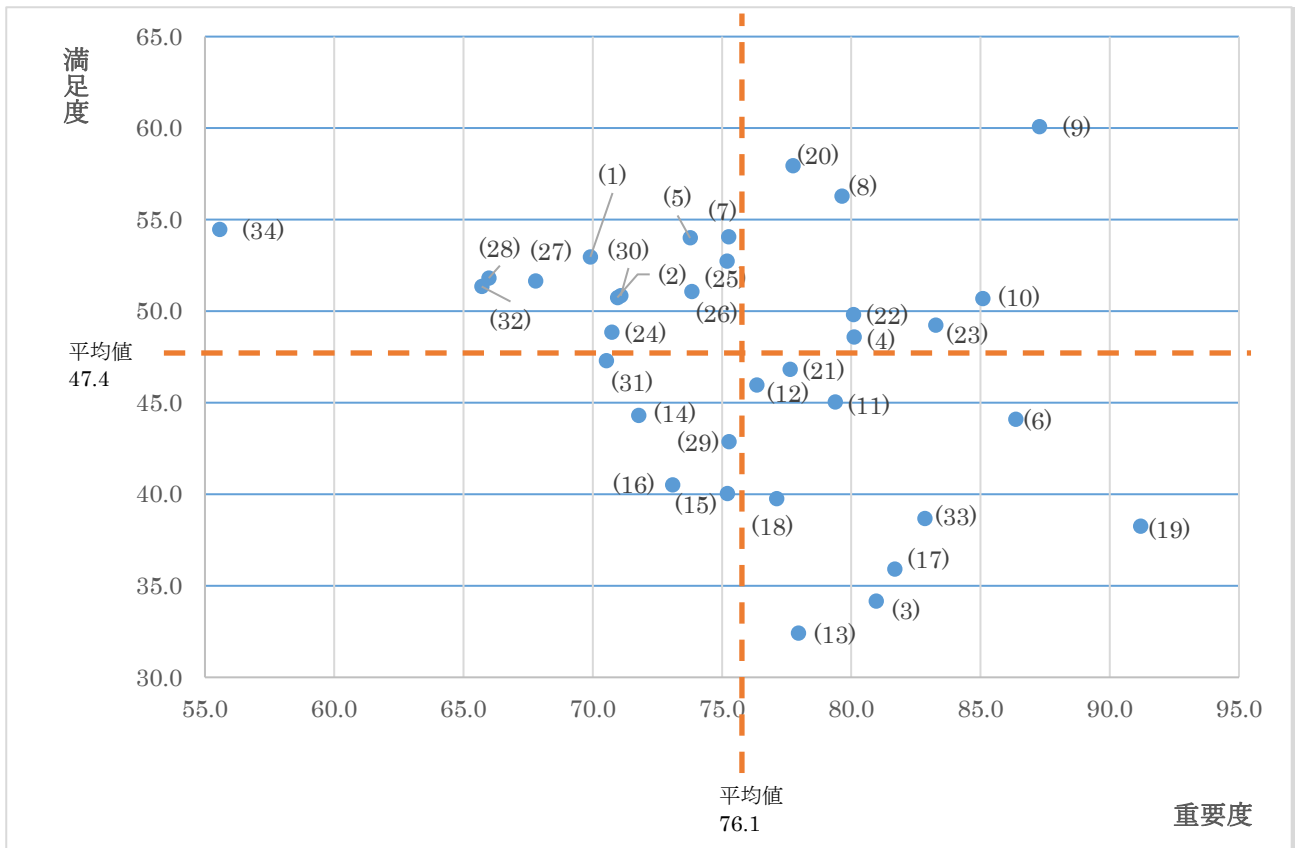
No.	カテゴリー名	n	%
1	はい	150	35.4
2	いいえ	130	30.7
3	わからない	134	31.6
	無回答	10	2.4
	全体	424	100.0

2 五城目町の取り組みの満足度・重要度について

【問6】 次の項目について、あなたの暮らしにとってどのくらい満足し、重要性を感じていますか。

項目ごとにあてはまるものを1つ選んで○をつけてください。

No.	項 目	満足度指数	重要度指数
(1)	自然と調和したまちなみ・景観づくり	53.0	69.9
(2)	自然環境の保全活動	50.7	71.0
(3)	利用しやすい公共交通体制	34.2	81.0
(4)	安全で便利な道路	48.6	80.1
(5)	住宅住環境	54.0	73.8
(6)	除排雪対策	44.1	86.4
(7)	ごみの減量化・リサイクル対策	54.1	75.3
(8)	交通安全・防犯対策	56.3	79.6
(9)	緊急時も安心な消防・救急体制	60.1	87.3
(10)	地震などに対する防災対策	50.7	85.1
(11)	ごみの不法投棄の未然防止	45.0	79.4
(12)	省エネルギー対策、地球温暖化防止への活動	46.0	76.3
(13)	空き家対策	32.4	77.9
(14)	農林業の振興	44.3	71.8
(15)	商工業の振興	40.0	75.2
(16)	観光の振興	40.5	73.1
(17)	地元での起業や雇用機会の拡充・創出	35.9	81.7
(18)	農業・商業・観光など産業間の連携	39.8	77.1
(19)	安心できる医療体制（救急医療を含む）	38.3	91.2
(20)	地域ぐるみの健康づくりや健診による予防対策	57.9	77.7
(21)	障がいのある人が暮らしやすい生活支援や環境の整備	46.8	77.6
(22)	高齢者への生きがいづくりや生活支援（介護予防など）	49.8	80.1
(23)	安心して子どもを産み、育てられる、子育て支援（育児相談、保育所など）	49.2	83.3
(24)	支え合い・ボランティア活動への町民参加	48.9	70.7
(25)	特色のある小中学校での教育	52.7	75.2
(26)	青少年の健全育成	51.1	73.8
(27)	生涯学習の活動や環境	51.6	67.8
(28)	健康づくりや町民交流を深めるスポーツ・レクリエーション活動	51.8	66.0
(29)	行財政の効率化・合理化	42.9	75.3
(30)	町政に関する情報公開、広報活動	50.8	71.1
(31)	町民との協働のまちづくりの推進	47.3	70.5
(32)	地域における町内会活動の推進	51.3	65.7
(33)	若者の移住定住の促進	38.7	82.8
(34)	千代田区との交流・連携	54.5	55.6
	平 均	47.4	76.1

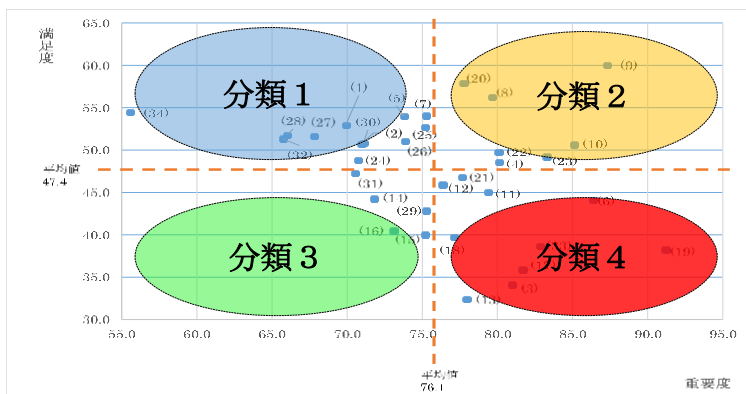


(参考)

評価分散図の見方

アンケートの結果（5段階）を「満足度指数」及び「重要度指数」として数値化し、それぞれの施策の「満足度」及び「重要度」を次のような4つの分類で評価しています。

町の取り組みに対する評価（見方）



「満足度指数」「重要度指数」
 アンケート結果（5段階）における、「満足している」「重要である」を100点、「やや満足している」「やや重要である」を75点、「ふつう」を50点、「やや不満である」「あまり重要でない」を25点、「不満である」「重要でない」を0点として、満足度や重要度を数値化したものです。

分類1：満足度が平均値よりも高く、重要度が平均値よりも低い施策

⇒ 現在の取り組み内容を継続する。

分類2：満足度・重要度ともに平均値よりも高い施策

⇒ 引き続き現在の取り組みを継続し満足度を上げる

分類3：満足度・重要度ともに平均値よりも低い施策

⇒ 質の向上に取り組む必要あり

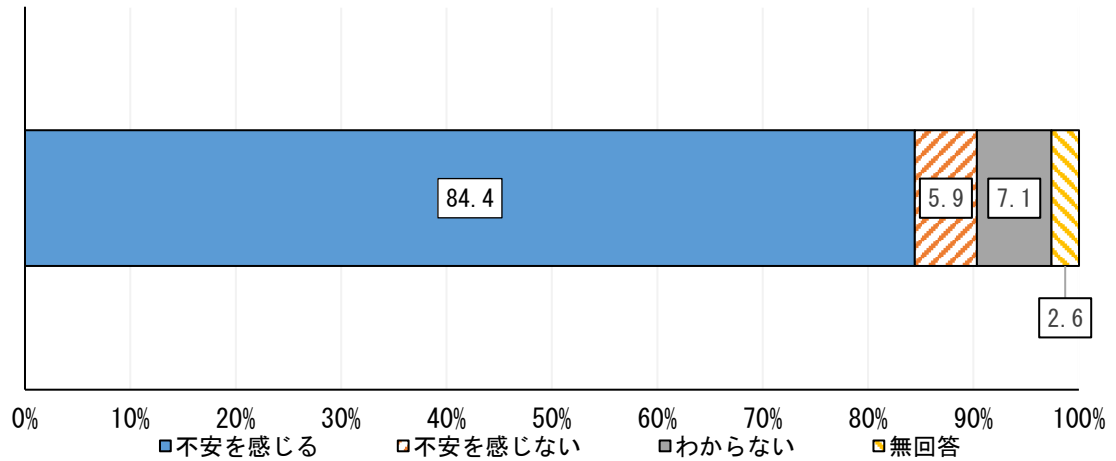
分類4：満足度が平均値よりも低く、重要度が平均値よりも高い施策

⇒ 現在の取り組みを強化・改善しながら取り組む必要あり

3 五城目町の将来人口推計について

【問7】 あなたは、五城目町の人口推移予測について、どのように思いますか。

「不安を感じる」が 84.4%であり、人口推移予測について不安を感じている人が8割を超えている。



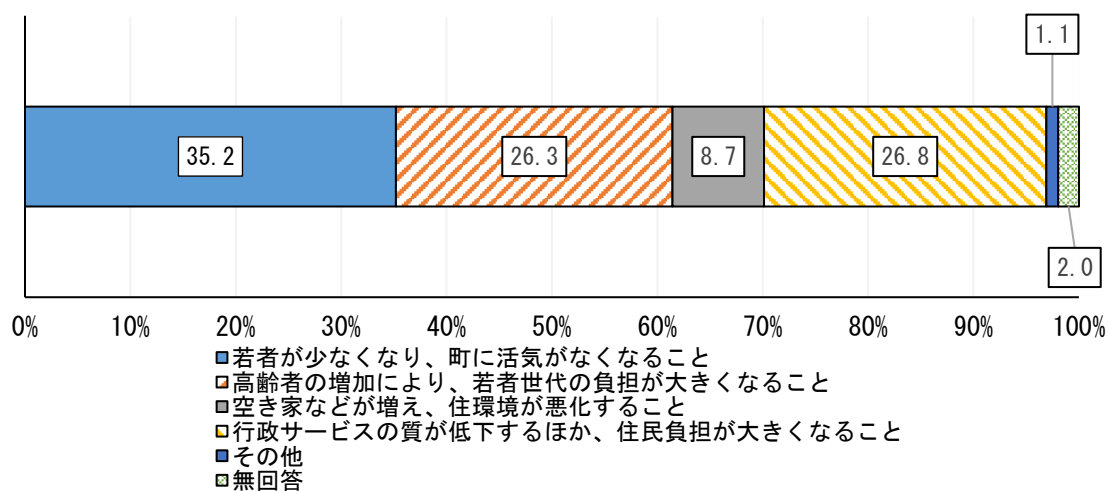
No.	カテゴリー名	n	%
1	不安を感じる	358	84.4
2	不安を感じない	25	5.9
3	わからない	30	7.1
	無回答	11	2.6
	全体	424	100.0

【問8】 【問7】で「1. 不安を感じる」を選択した方におたずねします。

具体的にどのようなことに最も不安を感じますか。

「若者が少なくなり、町に活気がなくなること」が35.2%で、町の活気に関して不安を持つ人が最も多い。

続いて、「行政サービスの質が低下するほか、住民負担が大きくなること」、「高齢者の増加により、若者世代の負担が大きくなること」がともに26%台である。「空き家などが増え、住環境が悪化すること」は8.7%である。

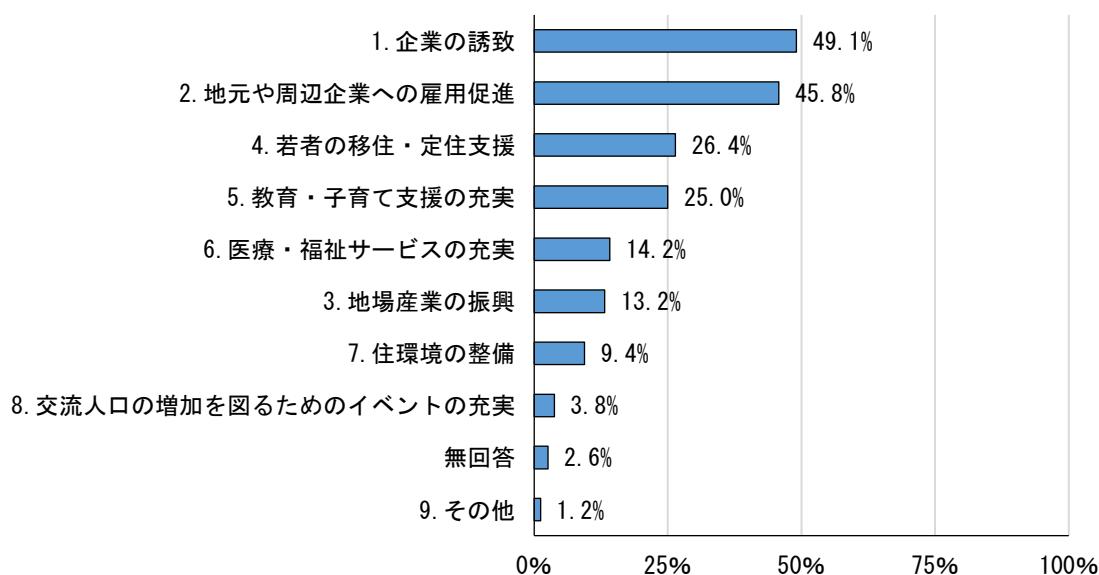


No.	カテゴリー名	n	%
1	若者が少なくなり、町に活気がなくなること	126	35.2
2	高齢者の増加により、若者世代の負担が大きくなること	94	26.3
3	空き家などが増え、住環境が悪化すること	31	8.7
4	行政サービスの質が低下するほか、住民負担が大きくなること	96	26.8
5	その他	4	1.1
	無回答	7	2.0
	全体	358	

【問9】 あなたは、五城目町において、若者の減少を抑えるためにどのような施策が必要であると思いますか。【2つまでに○】

「企業の誘致」の49.1%、「地元や周辺企業への雇用促進」の45.8%がともに4割を超え、産業・雇用面の施策を求める人が多い。

続いて「若者の移住・定住支援」が26.4%、「教育・子育て支援の充実」が25.0%、「医療・福祉サービスの充実」が14.2%、「地場産業の振興」が13.2%である。



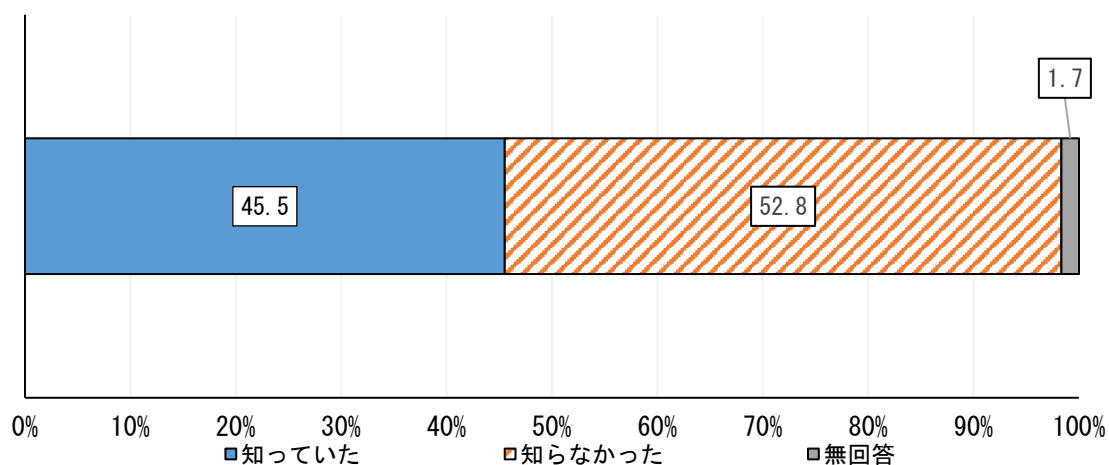
No.	カテゴリー名	n	%
1	企業の誘致	208	49.1
2	地元や周辺企業への雇用促進	194	45.8
3	地場産業の振興	56	13.2
4	若者の移住・定住支援	112	26.4
5	教育・子育て支援の充実	106	25.0
6	医療・福祉サービスの充実	60	14.2
7	住環境の整備	40	9.4
8	交流人口の増加を図るためのイベントの充実	16	3.8
9	その他	5	1.2
	無回答	11	2.6
	全体	808	190.6

4 地方創生「しごとづくり」について

【問10】 町では、若い世代の定着を図るため、産業振興や雇用創出を促す「しごとづくり」として、町内企業に対する雇用奨励支援、商品開発や販路開拓などの支援、起業する方に対する創業準備などの支援を行っています。

あなたは、町がこのような取り組みを行っていることを知っていましたか。

「知っていた」が45.5%と4割を超えるものの、「知らなかった」が52.8%であり、約半数の人はこの取り組みについて知らなかった。



No.	カテゴリー名	n	%
1	知っていた	193	45.5
2	知らなかった	224	52.8
	無回答	7	1.7
	全体	424	100.0

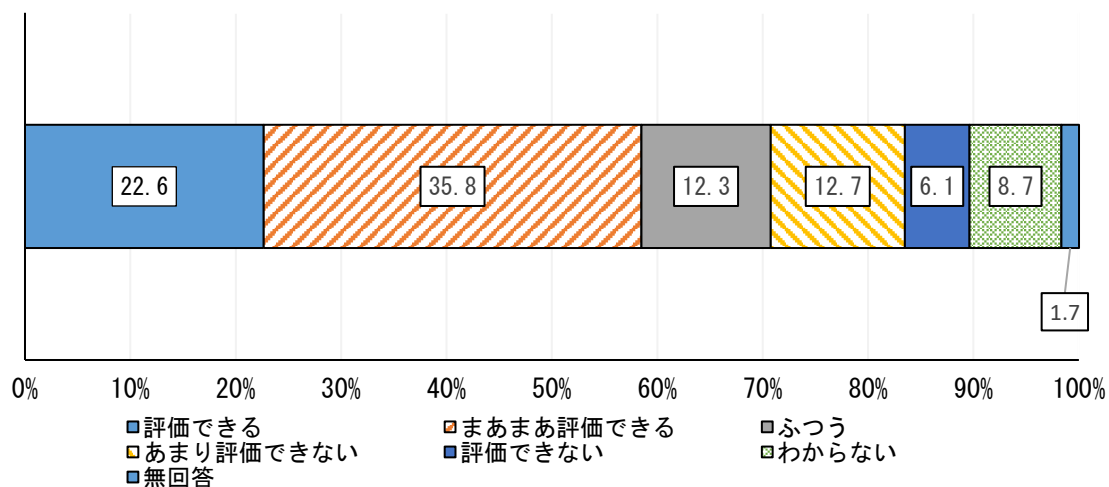
【問 1 1】 町では、町内企業に対して、新たに社員を雇用した場合に、1 人に対して 30 万円などの奨励金の交付を行っています。

平成 27 年度から平成 30 年度までの 4 年間で、延べ 12 社に対して奨励金を交付し、うち 5 社は農林業関係の事業者となっています。

これにより、新たに 25 人の雇用が確保されています。

あなたは、これらの取り組みをどのように評価しますか。

「評価できる」、「まあまあ評価できる」の合計が 58.4%と 6 割近い。一方、「評価できない」、「あまり評価できない」の合計は 18.8%であり、2 割近くの人は評価が低い。



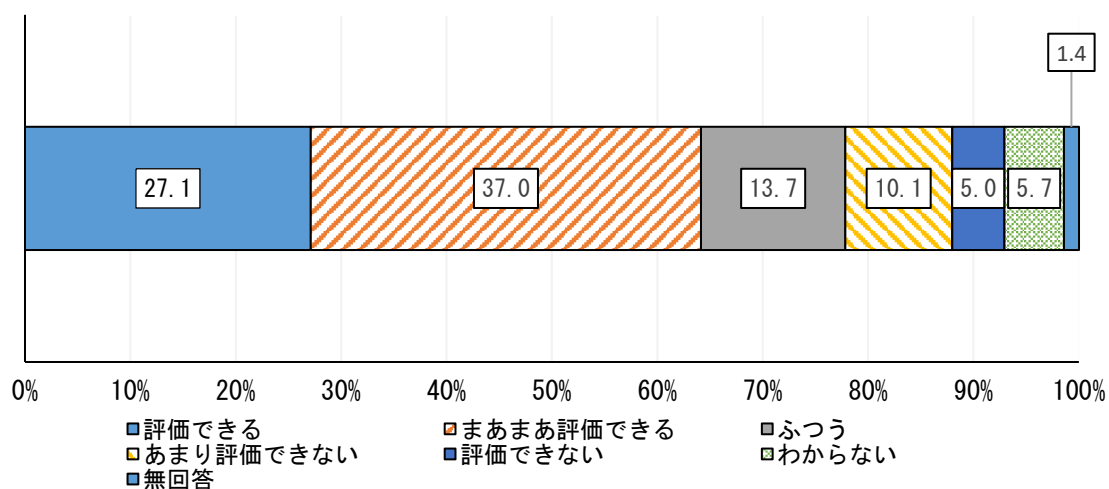
No.	カテゴリー名	n	%
1	評価できる	96	22.6
2	まあまあ評価できる	152	35.8
3	ふつう	52	12.3
4	あまり評価できない	54	12.7
5	評価できない	26	6.1
6	わからない	37	8.7
	無回答	7	1.7
	全体	424	100.0

【問12】 町では、町内企業に対して、商品開発や販路拡大、既存店舗改修などの経費の一部に対する支援を行っています。平成27年度から平成30年度までの4年間で、この支援制度を活用した企業は15件となっています。

これにより、新たにキイチゴを加工したお菓子やビールなどがつくられ、地場産業の振興が図られています。

あなたは、これらの取り組みをどのように評価しますか。

「評価できる」、「まあまあ評価できる」の合計は64.1%と6割を超える。一方、「評価できない」、「あまり評価できない」の合計は15.1%である。



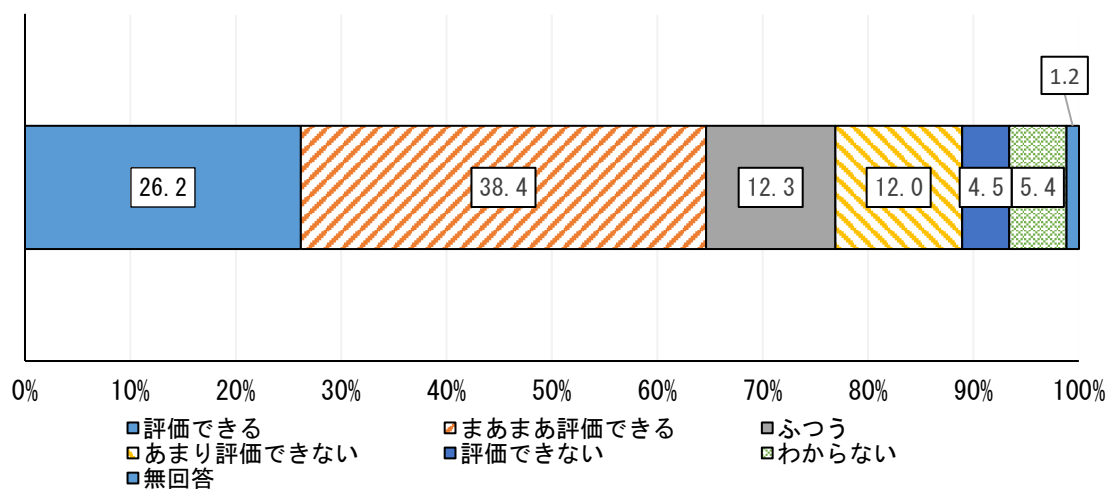
No.	カテゴリー名	n	%
1	評価できる	115	27.1
2	まあまあ評価できる	157	37.0
3	ふつう	58	13.7
4	あまり評価できない	43	10.1
5	評価できない	21	5.0
6	わからない	24	5.7
	無回答	6	1.4
	全体	424	100.0

【問13】 町では、起業する方に対して、事業活動を行うための建物や備品の整備などの経費の一部に対する支援を行っています。平成27年度から平成30年度までの4年間で、この支援制度を活用した起業者は7件で、うち5件は町外から移住して起業された方となっています。

これにより、町中心市街地に新たにカフェがオープンするなど、事業活動の活性化が図られています。

あなたは、これらの取り組みをどのように評価しますか。

「評価できる」、「まあまあ評価できる」の合計は、64.6%と6割を超える。「評価できない」、「あまり評価できない」の合計は16.5%である。



No.	カテゴリー名	n	%
1	評価できる	111	26.2
2	まあまあ評価できる	163	38.4
3	ふつう	52	12.3
4	あまり評価できない	51	12.0
5	評価できない	19	4.5
6	わからない	23	5.4
	無回答	5	1.2
	全体	424	100.0

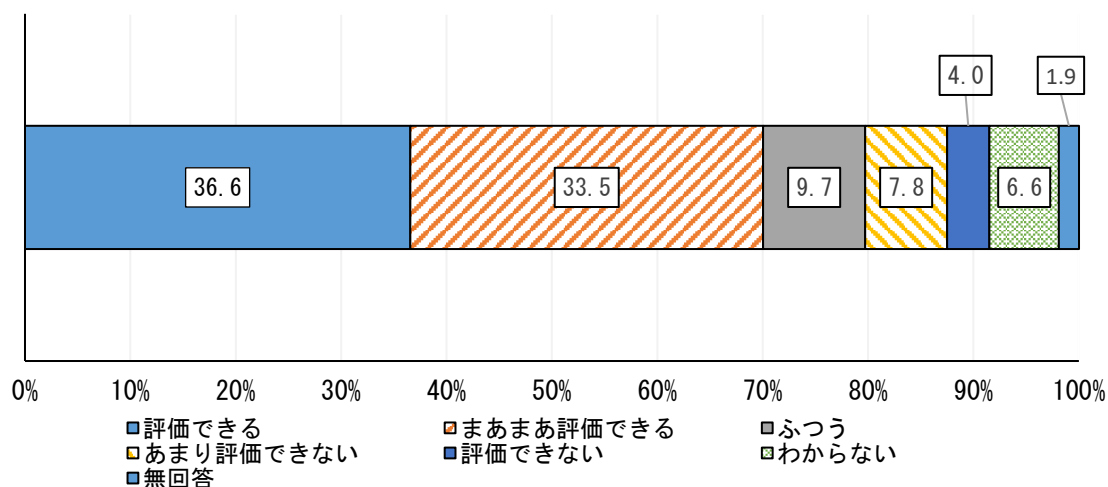
【問14】 町では、起業を目指してチャレンジする方を支援するとともに、町内での働く場を増やすため、平成25年度に廃校となった馬場目小学校を活用し、レンタルオフィスとして「地域活性化センター」を開設しています。

これまで、レンタルオフィスに入居した企業は18社となっています。

これにより、起業や移住希望者の視察も多く、年間5,000人を超える来館があり、起業活動などを行うための拠点となっています。

あなたは、地域活性化支援センターに関する町の取り組みをどのように評価しますか。

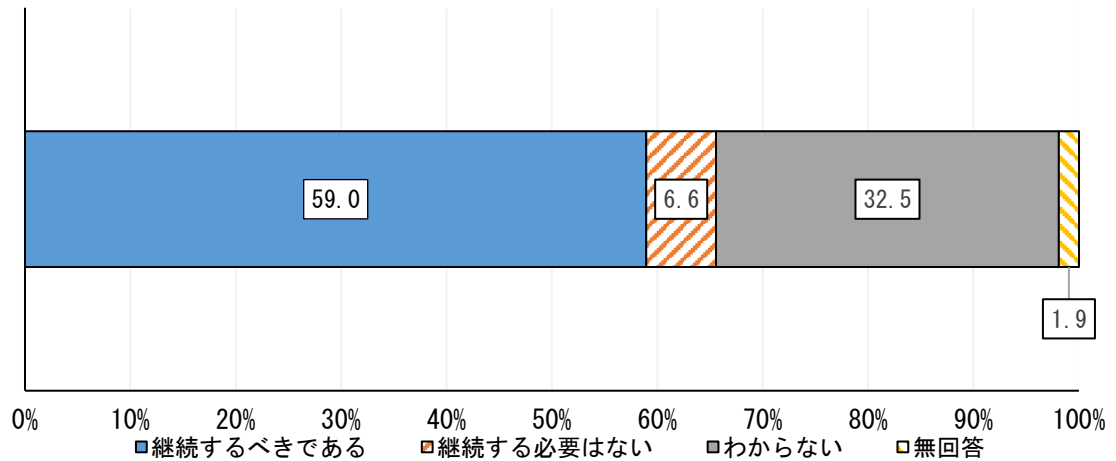
「評価できる」、「まあまあ評価できる」の合計が70.1%と約7割、「評価できない」、「あまり評価できない」の合計が11.8%である。



No.	カテゴリー名	n	%
1	評価できる	155	36.6
2	まあまあ評価できる	142	33.5
3	ふつう	41	9.7
4	あまり評価できない	33	7.8
5	評価できない	17	4.0
6	わからない	28	6.6
	無回答	8	1.9
	全体	424	100.0

【問15】 町では、【問11】から【問14】にありますように、町内における働く場や新たな仕事を増やすことを目的に、町内企業や起業を目指す方に対して様々な支援を行ってきました。あなたは、これらの支援について、今後どのようにするべきだと思いますか。

「継続するべきである」が59.0%、「継続する必要はない」が6.6%であり、約6割の人が継続を望んでいる。



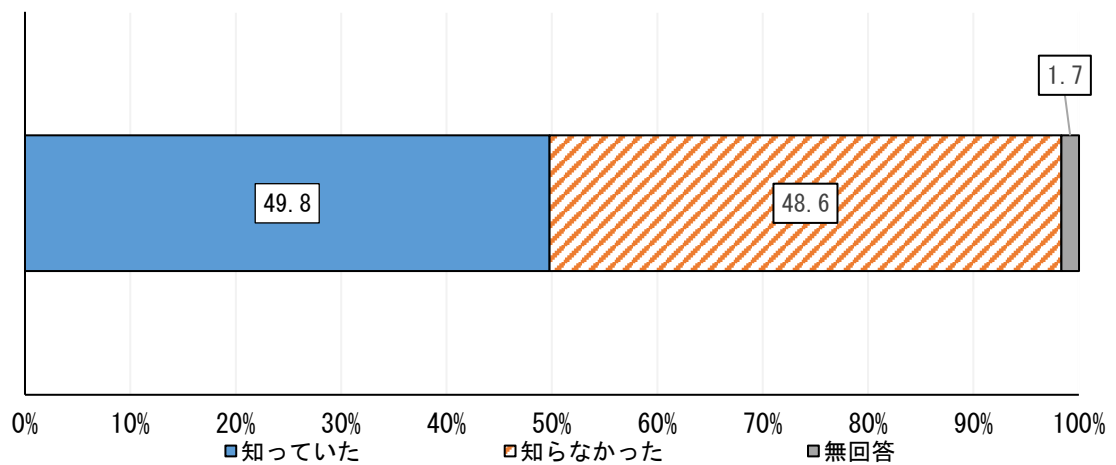
No.	カテゴリー名	n	%
1	継続するべきである	250	59.0
2	継続する必要はない	28	6.6
3	わからない	138	32.5
	無回答	8	1.9
	全体	424	100.0

5 地方創生 「移住・定住対策」について

【問17】 町では、町外からの移住の促進を図るため、町出身者のUターンの促進など「移住・定住対策」として、首都圏において、町出身の若者などを呼び込むためのイベント開催や情報発信を行い、さらには、移住者の住居となる空き家を活用したイベントを行っています。

あなたは、町がこのような取り組みを行っていることを知っていましたか。

「知っていた」が49.8%、「知らなかった」が48.6%であり、知っている人と知らなかった人がほぼ半々である。



No.	カテゴリー名	n	%
1	知っていた	211	49.8
2	知らなかった	206	48.6
	無回答	7	1.7
	全体	424	100.0

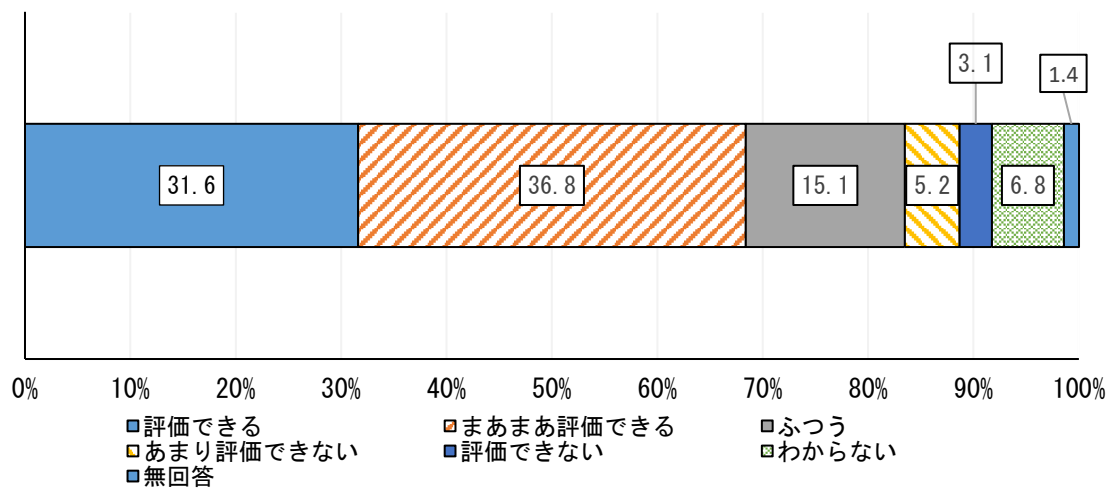
【問18】 町では、首都圏において大学生から40歳代までの若い世代を対象にイベントを開催し、五城目町出身者や関係者が集うコミュニティをつくり、情報提供や交流を重ねることで、Uターン促進を図っています。

平成27年度から平成30年度までの4年間で、首都圏イベントを7回実施し、参加者は延べ193人となっています。

この取り組みなどにより、首都圏から6世帯20人が町に移住しています。

あなたは、これらの取り組みをどのように評価しますか。

「評価できる」、「まあまあ評価できる」の合計が68.4%と7割近く、「評価できない」、「あまり評価できない」の合計は8.3%と1割を下回る。



No.	カテゴリー名	n	%
1	評価できる	134	31.6
2	まあまあ評価できる	156	36.8
3	ふつう	64	15.1
4	あまり評価できない	22	5.2
5	評価できない	13	3.1
6	わからない	29	6.8
	無回答	6	1.4
	全体	424	100.0

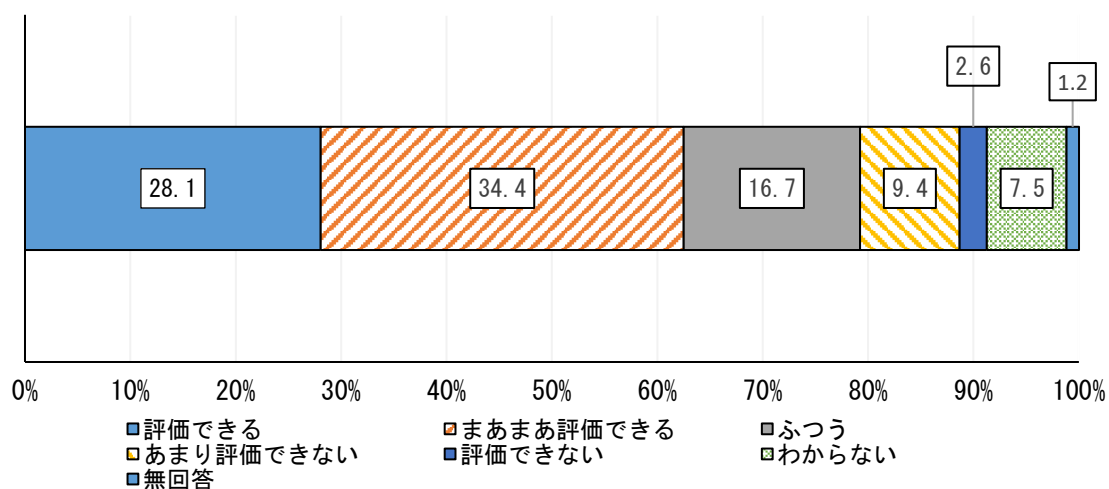
【問19】 町では、町内の空き家を活用した移住を促進するため、情報発信や移住者と地域住民が協力して行う空き家リフォームイベントに対する支援を行っています。

平成28年度から平成30年度までの3年間で、リフォームイベントを3回実施しています。

これにより、地域住民との交流も図られ、3世帯の定住につながっています。

あなたは、これらの取り組みをどのように評価しますか。

「評価できる」、「まあまあ評価できる」の合計が62.5%と約6割、「評価できない」、「あまり評価できない」の合計が12.0%である。



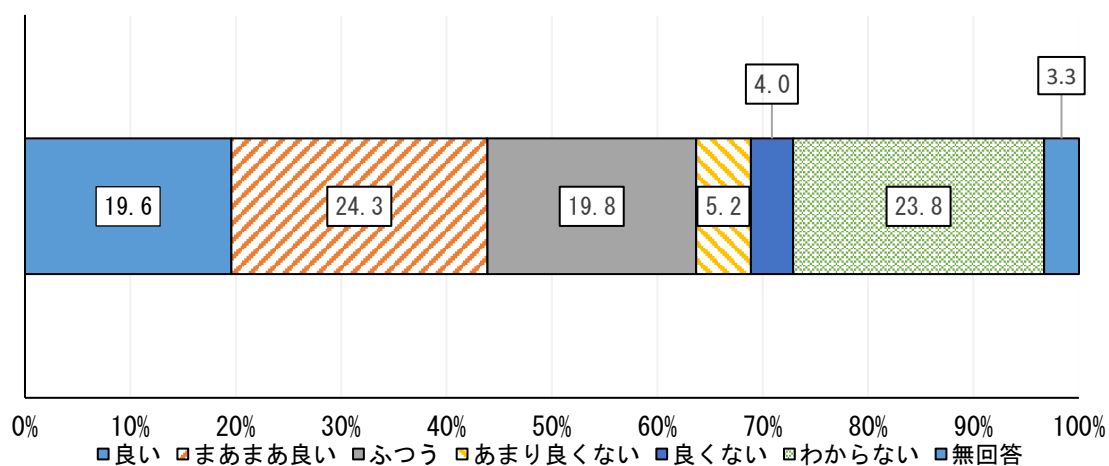
No.	カテゴリー名	n	%
1	評価できる	119	28.1
2	まあまあ評価できる	146	34.4
3	ふつう	71	16.7
4	あまり評価できない	40	9.4
5	評価できない	11	2.6
6	わからない	32	7.5
	無回答	5	1.2
	全体	424	100.0

【問20】 町では、今年度、「観光以上・移住未満」の立場で地域活動や住民との交流を体験し、その後も交流を継続する体制を構築して、域外に住みながら主体的に地域と関わる人材「関係人口」を創出し、新たな視点を取り入れた地域づくりを促進するため、関西圏をターゲットに秋田県と共同で町のPRを行い、興味を持った方に町を案内し、町の魅力を発信し、抱えている地域課題などを一緒に考える機会を設けたりする事業を展開しています。

あなたは、この観光でもない、移住でもないスタンスで地域と関わる方々（関係人口）と行う、地域づくりの取り組みについてどう思いますか。

「良い」、「まあまあ良い」の合計が43.9%、「良くない」、「あまり良くない」の合計が9.2%であり、関係人口との地域づくりの取り組みについて評価する人が多い。

一方、「わからない」も23.8%と2割を超える。

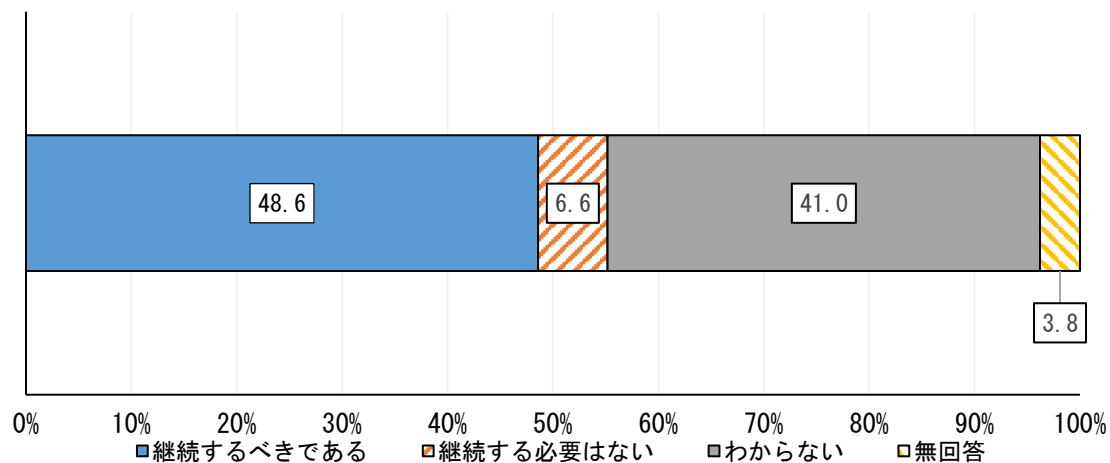


No.	カテゴリー名	n	%
1	良い	83	19.6
2	まあまあ良い	103	24.3
3	ふつう	84	19.8
4	あまり良くない	22	5.2
5	良くない	17	4.0
6	わからない	101	23.8
	無回答	14	3.3
	全体	424	100.0

【問21】 町では、【問18】から【問20】にありますように、若い世代を町に呼び込むことを目的に、首都圏でのコミュニティづくりなどを行ってきました。

あなたは、これらの取り組みについて、今後どのようにするべきだと思いますか。

「継続するべきである」が48.6%、「継続する必要はない」が6.6%であり、継続を望む人が多い。一方で、「わからない」が41.0%と4割を超える。



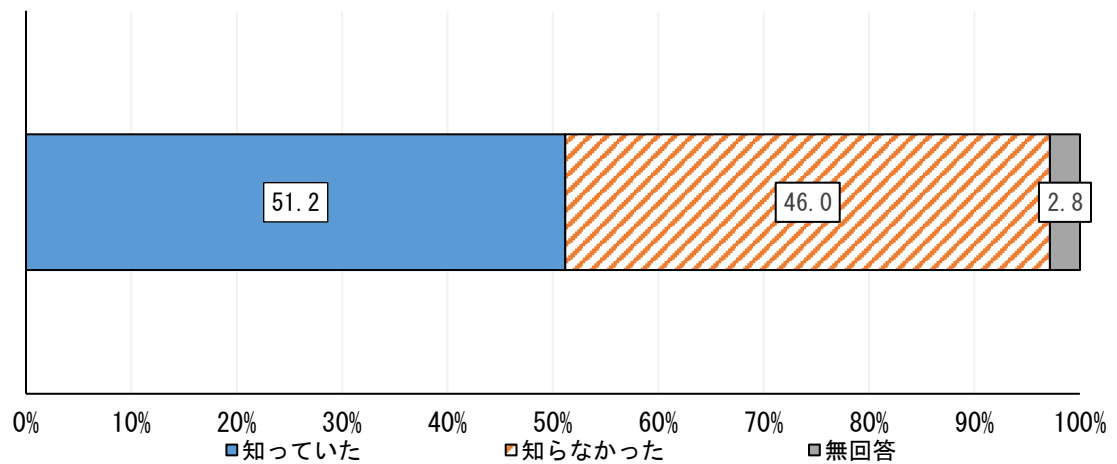
No.	カテゴリー名	n	%
1	継続するべきである	206	48.6
2	継続する必要はない	28	6.6
3	わからない	174	41.0
	無回答	16	3.8
	全体	424	100.0

6 地方創生「少子化対策」について

【問23】 町では、子育てしやすい環境づくりを整備する「少子化対策」として、男女の出会いから結婚、出産、子育てまでの支援や制度のパッケージ化や国県の取り組みと合わせ医療費や保育料の助成制度拡充による経済的支援の充実などを行っています。

あなたは、町がこのような取り組みを行っていることを知っていましたか。

「知っていた」が51.2%、「知らなかった」が46.0%と大きな違いはないものの、知っていた人の方がやや多い。



No.	カテゴリー名	n	%
1	知っていた	217	51.2
2	知らなかった	195	46.0
	無回答	12	2.8
	全体	424	100.0

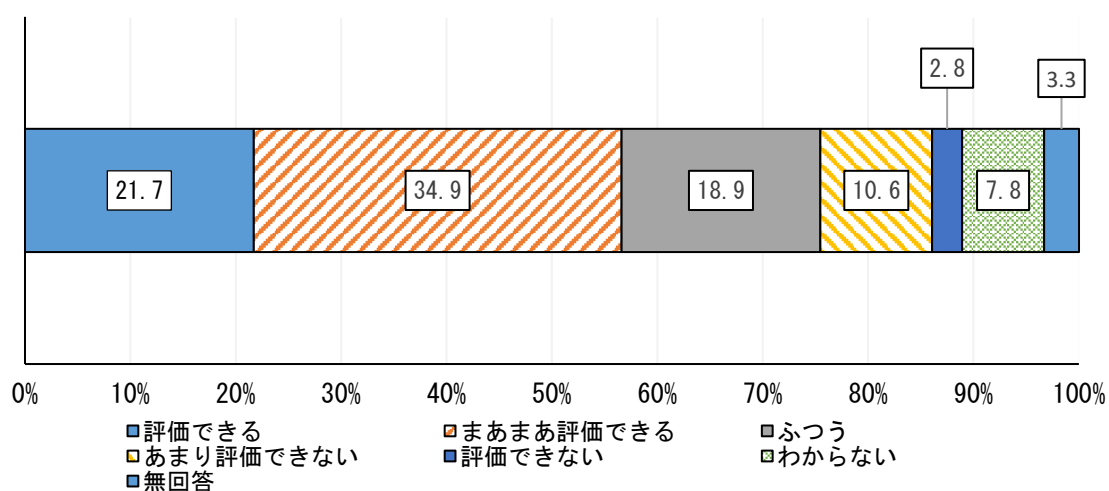
【問24】 町では、出会いから結婚までを支援するため、若者交流イベントの開催や結婚サポーターによる結婚相談などを行ったり、新婚さんの引っ越しや住居家賃などの費用の一部に対して支援を行ったりしています。

平成28年度から平成30年度までの3年間で、若者交流イベントは8回開催しています。

これらの取り組みにより、出会いの場の確保が図られ、2組の成婚につながっています。

あなたは、これらの取り組みをどのように評価しますか。

「評価できる」、「まあまあ評価できる」の合計が56.6%と5割を超え、「評価できない」、「あまり評価できない」の合計は13.4%と、評価する人が多い。



No.	カテゴリー名	n	%
1	評価できる	92	21.7
2	まあまあ評価できる	148	34.9
3	ふつう	80	18.9
4	あまり評価できない	45	10.6
5	評価できない	12	2.8
6	わからない	33	7.8
	無回答	14	3.3
	全体	424	100.0

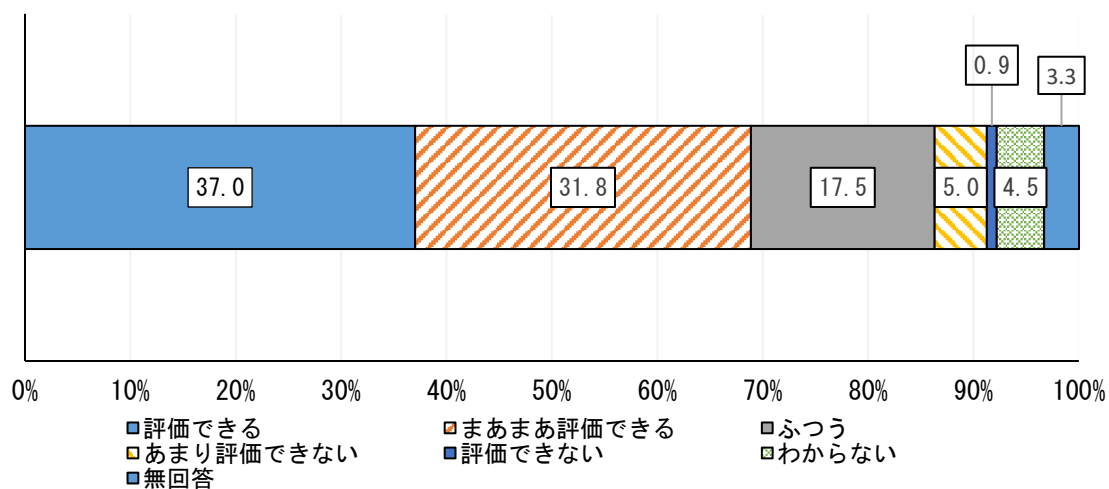
【問25】 町では、子育て世代の経済的な負担を軽減するため、医療費や保育料軽減のほか、誕生祝い金や子育て支援クーポン券の支給、チャイルドシート購入補助など町独自の支援を行っています。

平成27年度から平成30年度までの4年間で、誕生祝い金は170人（年間平均42人）に支給しています。

これらの支給などにより、第2子出生数は、ここ数年は20人に増えています。

あなたは、これらの取り組みをどのように評価しますか。

「評価できる」、「まあまあ評価できる」の合計が68.8%と7割近く、「評価できない」、「あまり評価できない」の合計は5.9%と、評価する人が多い。

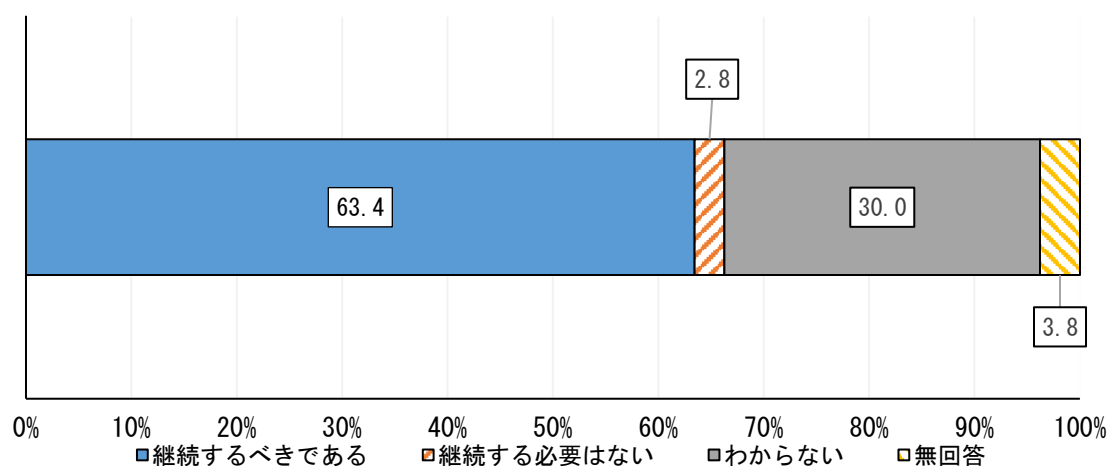


No.	カテゴリー名	n	%
1	評価できる	157	37.0
2	まあまあ評価できる	135	31.8
3	ふつう	74	17.5
4	あまり評価できない	21	5.0
5	評価できない	4	0.9
6	わからない	19	4.5
	無回答	14	3.3
	全体	424	100.0

【問26】 町では、【問24】や【問25】にありますように、男女の出会いや出生率の向上を目指すことを目的に、子育てしやすい環境を整備するため、様々な取り組みや支援などを行ってきました。

あなたは、これらの取り組みについて、今後どのようにするべきだと思いますか。

「継続するべきである」が63.4%、「継続する必要はない」が2.8%であり、継続を望む人が6割を超える。



No.	カテゴリー名	n	%
1	継続するべきである	269	63.4
2	継続する必要はない	12	2.8
3	わからない	127	30.0
	無回答	16	3.8
	全体	424	100.0

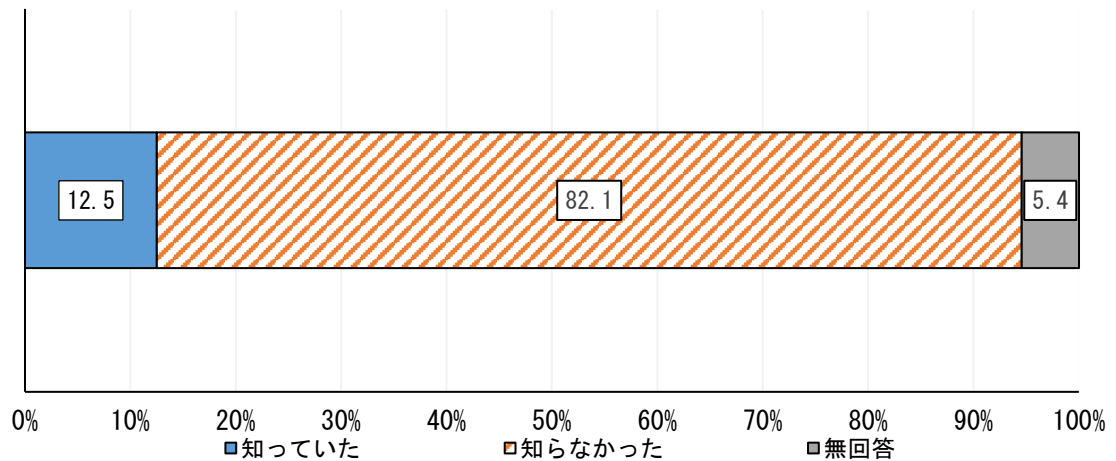
7 地方創生「地域づくり対策」について

【問28】 人口が減少しても、住みなれた地域で生活を継続させるため、複数の集落からなる住民が行政や事業者、各種団体などと協力・役割分担しながら「地域運営組織」をつくり、自分たちで「買い物サービス」や「地域住民の送迎サービス」のような取り組みを進めるなど「小さな拠点」を形成する事例が、全国的に増えています。

町では、今年度、秋田県と連携して、馬場目地区をモデル地区として、人口の安定化を図り、「小さな拠点」形成について、その可能性などについて検討を行っています。

あなたは、町が複数の集落からなる地区単位で「小さな拠点」形成に向けた検討を行っていることを知っていましたか。

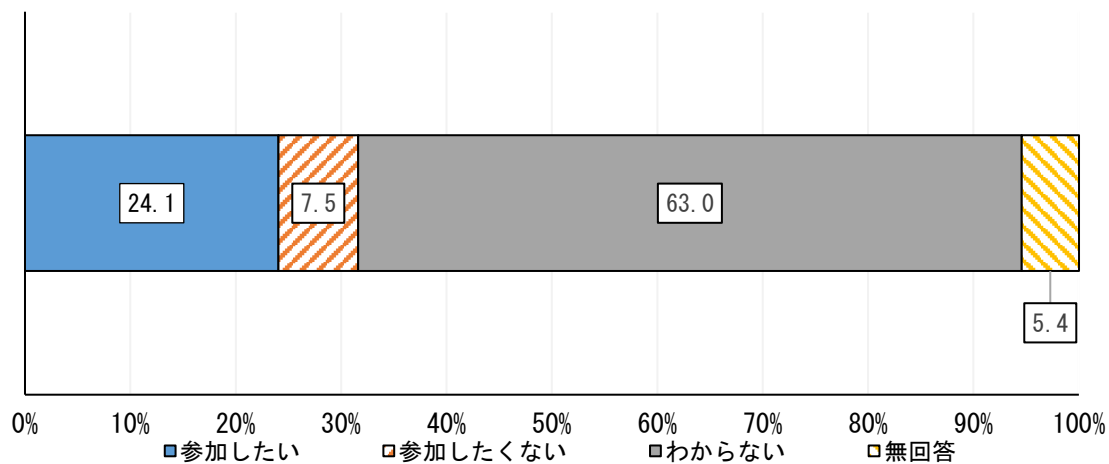
「知っていた」は12.5%、「知らなかった」が82.1%であり、8割を超える人は、町が「小さな拠点」形成に向けた検討を行っていることを知らなかった。



No.	カテゴリー名	n	%
1	知っていた	53	12.5
2	知らなかった	348	82.1
	無回答	23	5.4
	全体	424	100.0

【問29】 あなたは、馬場目地区で現在行っているような話し合いなどの取り組みが、自分が住んでいる地区で行うこととなった場合、参加したいと思いますか。

「参加したい」と考える人は24.1%と約4分の1、「参加したくない」と考える人は7.5%である。「わからない」が63.0%あり、考えを決めかねている人が多い。

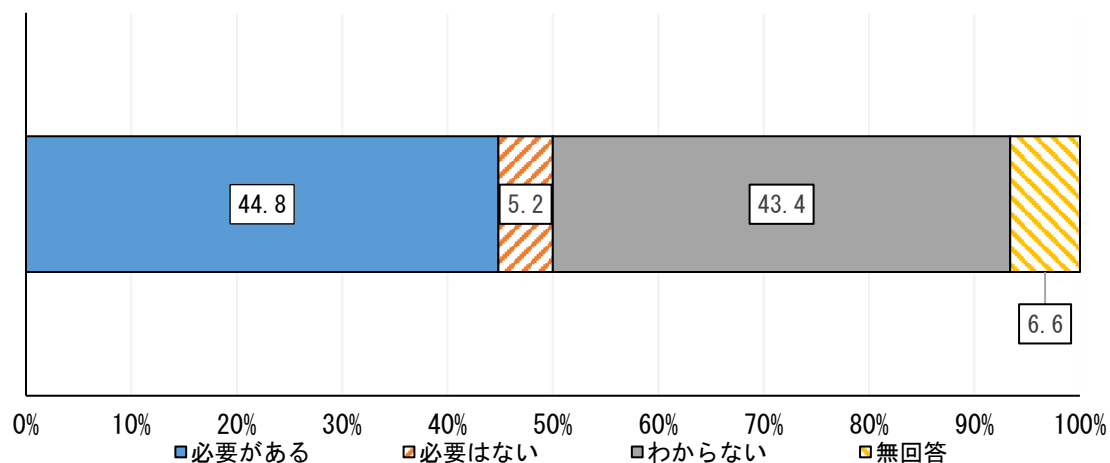


No.	カテゴリー名	n	%
1	参加したい	102	24.1
2	参加したくない	32	7.5
3	わからない	267	63.0
	無回答	23	5.4
	全体	424	100.0

【問30】 あなたは、人口減や少子高齢化を考えた場合、町内会での様々な活動を継続し、日常生活の課題解決に向けた取り組みを行うため、将来的には、複数の集落が連携し、「小さな拠点」を形成する取り組みを行う必要があると思いますか。

「必要がある」が44.8%、「必要はない」が5.2%であり、4割を超える人が「小さな拠点」を形成する取り組みの必要があると考えている。

一方、「わからない」という回答も43.4%と4割を超える。



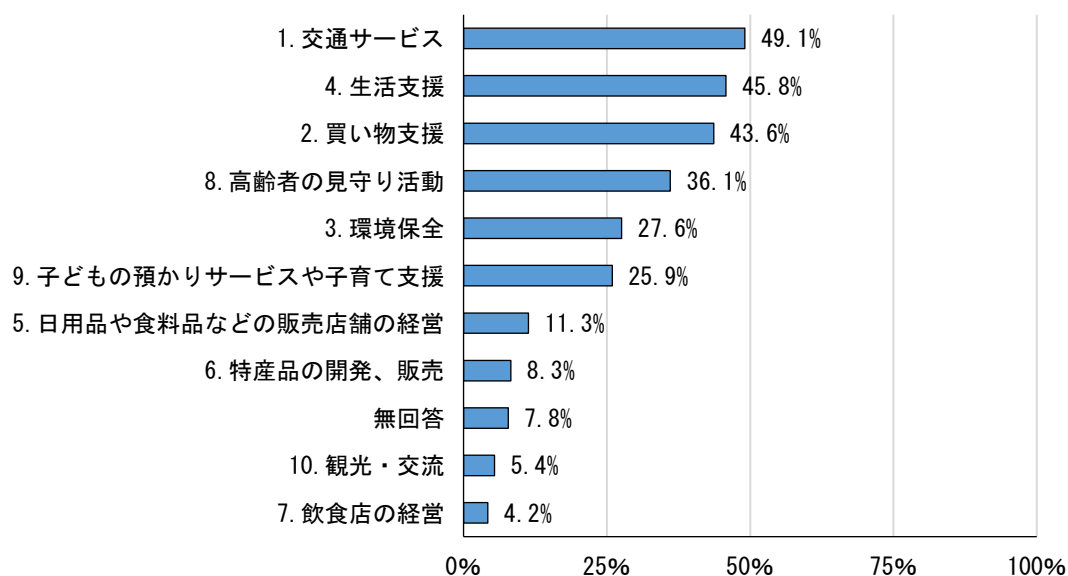
No.	カテゴリー名	n	%
1	必要がある	190	44.8
2	必要はない	22	5.2
3	わからない	184	43.4
	無回答	28	6.6
	全体	424	100.0

【問3 1】 あなたは、自分の住んでいる地域で「小さな拠点」を形成するとした場合、地域住民が主体となって行う事業活動として、どのような取り組みが必要だと思いますか。

【3つまで〇】

「交通サービス」が49.1%で最も多い。「生活支援」の45.8%、「買い物支援」の43.6%、「高齢者の見守り活動」の36.1%が3割を超える。

続いて、「環境保全」の27.6%、「子どもの預かりサービスや子育て支援」の25.9%、「日用品や食料品などの販売店舗の経営」の11.3%が1割を超える回答だった。



No.	カテゴリー名	n	%
1	交通サービス	208	49.1
2	買い物支援	185	43.6
3	環境保全	117	27.6
4	生活支援	194	45.8
5	日用品や食料品などの販売店舗の経営	48	11.3
6	特産品の開発、販売	35	8.3
7	飲食店の経営	18	4.2
8	高齢者の見守り活動	153	36.1
9	子どもの預かりサービスや子育て支援	110	25.9
10	観光・交流	23	5.4
	無回答	33	7.8
	全体	1124	265.1